

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10			
1	全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1	必修		○	○		授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。 (a)批判的に読むこと一文と文、パラグラフとパラグラフとの論理関係を分析、把握する。 (b)批判的に書くこと一論理構成、課題提起、結論の明確な論述をなす能力（小論課題、レポート、期末論述試験、論文）。 (c)ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション。 (d)ノート・テイキング、記録、報告。 (e)学習関連資料調査法—(1)レファレンス、視聴覚資料、文化財含む図書館利用法、(2)オンライン資料調査法、(3)フィールドワーク、(4)資料整理、保存法。 (f)PC活用術—(1)文書作成、作表、計算、電子ファイル化、(2)通信、伝達の倫理と基本マナー。	◎	○											
2	全学部共通基盤科目群	自然科学概論	2	選択			○		人間は古来、我々を取り巻く自然の理解に努めてきた。本講義では、歴史を振り返りつつ、人類が到達した現在の自然観について、目に見えない極微の世界から等身大のスケール、更に銀河・宇宙などの極大の世界に至るまでを概説する。自然と人間について深く考える姿勢を培い、3.11後を生きたるための基礎的科学知識を身に付けることを目標とする。				◎	○								
3	全学部共通基盤科目群	生命現象の理解とその応用-生命科学	2	選択					生命科学は現代人にとり必須の教養であるが、研究や開発のスピードが極めて速いため一般には学ぶ機会が少ない。本講義では、生命の仕組みと、生物の多様性の創出メカニズムについて、生命の本質を科学の視点から理解する。そのうえで、遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先進的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。				◎	○								
4	全学部共通基盤科目群	生物からみた環境の仕組み・生態学	2	選択					地球環境を支える「自然」の仕組みを理解するうえで重要な生態学（Ecology）の基礎を学ぶ。生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様性やその創出機構、そして生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に着目し、「生態系の中での人間」という視点から環境問題を考えるきっかけとしたい。				◎	○								
5	全学部共通基盤科目群	食環境論	2	選択					食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（持続可能な開発目標）、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちが取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。なお、毎回講義内容をマインドマップの手法を用いてノートにまとめ、事前・事後学習に役立てる。				◎	○								
6	全学部共通基盤科目群	香りと環境	2	選択	○				私たちが取り巻く環境にはさまざまな香り、においが存在している。異なる視点から香りやにおいをテーマに取り上げた新聞記事を読み、その作用や役割を考える。毎回、事前学習・事後学習で自身の意見をワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイデアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。				◎	○								
7	全学部共通基盤科目群	身体の理解	2	選択					ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の構造や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。				◎	○								
8	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	必修	○			○	社会に必要な情報活用技術として、文書作成、およびインターネット活用（サイト検索、メール）の方法を、パソコン演習を通して修得する。演習では毎回、各アプリケーションを利用した課題作成を行い、課題作成の中で、必要な操作の習熟を行う。				◎	○								
9	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	必修			○	○	既に情報機器、情報ネットワークについて基礎的な知識を有している者を対象として、コンピュータ利用の実践的利用方法について学ぶ。情報学の歴史的、技術的、理論的背景を元に情報機器を実際に運用しつつ、文書作成および表計算について学ぶ。				◎	○								
10	全学部共通基盤科目群	情報セキュリティA	2	必修	○				インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきた。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。				◎	○								
11	全学部共通基盤科目群	情報社会と情報倫理	2	選択					メディアが社会に与える影響、情報倫理、多様性、プライバシーといった現代の倫理的課題を考察する。また、コンテンツの創作・利用に関わる著作権、肖像権、知的財産権等の法的基礎知識を学び、クリエイターとしての社会的責任を養う。				◎	○								
12	全学部共通基盤科目群	人工知能論	2	選択				○	AI（人工知能）の基本原理と、AIGC（AI Generated Content）を含むメディア芸術における多様な活用事例を概観する。AI技術が社会やクリエイティブ活動に与える影響を理解し、その倫理的な側面について基礎的な知識を習得する。				◎	○								
13	全学部共通基盤科目群	データサイエンスI	2	必修	○	○		○	本講義では、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象に、データサイエンスの導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展やしぐみ学ぶ。基礎では、Excelによるデータ演習を実践する。心得では、データを活用する際の留意事項を学ぶ。最後にはデータをプロジェクトを実践することで、AI時代に必須のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。				◎	○								
14	全学部共通基盤科目群	データサイエンスII	2	選択		○		○	本講義では、データサイエンスIで学んだ内容をもとに、プログラミングの基礎とデータ分析の実践を学ぶ。データサイエンスで主流のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行う。実際に手を動かささまざまなデータ分析を行うことで、データサイエンティストとして第1歩を踏み出すことを目指す。				◎	○								
15	全学部共通基盤科目群	モデル化とシミュレーション	2	選択				○	コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の大規模化に後押しされ、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本授業では、社会科学と自然科学の分野から幾つかの問題を取り上げて、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実際を学ぶ。				◎	○								
16	全学部共通基盤科目群	プログラミングA	2	選択				○	この授業では、Pythonというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を一から学修する。Pythonの利用方法や特徴、基本的な用語の説明から入り、基本的な入出力操作や、if文やmatch文を使ったプログラムの流れを制御するための分岐構造、複雑な条件分岐における入れ子構造、while文やfor文を使ったプログラムの繰り返し処理や多重ループなどについて学修する。				◎	○								
17	全学部共通基盤科目群	アルゴリズムA	2	選択				○	本講義では、学習初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めて、アルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造（変数・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など）とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索（順次探索法・番兵法・二分探索法など）を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。				◎	○								
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択	○			○	情報システムは、経営戦略を考える上で中核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立っている情報通信技術(ICT)の進歩は著しい。この進歩に支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎論で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。	◎		○										
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択	○				統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1. 記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2. 確率変数と確率分布：統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3. 推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。				◎	○								
20	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(解析)	2	選択				○	本授業では、微積分の基本概念を学び、数学的な計算力を養う。前半では、等差数列・等比数列を中心に数列の一般項や和の計算を学び、数列の極限について理解を深める。次に、関数の極限や微分法を学び、関数の変化の特徴を数学的に捉える手法を修得する。後半では、積分法を学び、不定積分・定積分の計算を通じて、面積や体積の求め方を修得する。				◎	○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10			
38	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトH	2	選択					域学共創プロジェクトは、学生が主体となり地域の方々や協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。当授業は、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することで、祭りと地域、人々との関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。		◎			○								
39	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトI	2	選択	○	○	○		本講義は、東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる地域課題について、地域の様々な団体と連携し、実践的に取り組むことを通じて、課題発見力、課題解決力等を養うものである。2025年度は地域の農業の人手不足によるフードロス、耕作放棄による里山環境の消失や生物の絶滅、町おこしなどのテーマに取り組んでいる。		◎			○								
40	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトJ	2	選択							◎			○								
41	全学部共通基盤科目群	史学概論	2	選択					人間社会の様々な事象（事件、制度、文化等）が現在あるような形と内容になった因果関係を探るのが歴史学である。まず、歴史を研究するとどのような行為かを考える。事実と史実と真実の違いは何か。次に、日本以外の地域の歴史のなかからテーマを選び、人類の歩みにおける因果律について考察したい。政治史を主としながらも、その裏にあるテクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。						○	◎						
42	全学部共通基盤科目群	日本史を学ぶ	2	選択					本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へという歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなる予定であるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生が、日本の歴史を学ぶ意欲をもち、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。					○	◎							
43	全学部共通基盤科目群	アジア史概論	2	選択					地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域を理解し、その上で東アジア地域について検討する。古代と中世については、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代は、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていき、現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。						○	◎						
44	全学部共通基盤科目群	現代史入門	2	選択					近現代史を体系的に理解することで現代社会の背景を読み解く力を養うことを目的とする。前近代と近代の違いや二大戦以前からの世界情勢を追い、政治・戦争に加え経済・社会の流れを意識して学ぶことで、国際情勢の変化と日本の位置づけを考察する視座を得る。講義を中心に進め、映像資料を交えつつ歴史的背景や基礎知識を解説する。各回の小課題を通して因果関係を整理し、歴史的事象を自ら説明できる力を培う。						○	◎						
45	全学部共通基盤科目群	房総の文化と歴史	2	選択	○				本講義は、千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取り組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。						○	◎						
46	全学部共通基盤科目群	映像メディア史	2	選択					人類は映像というメディアをどのように利用、活用してきたのか。その歴史を追うと同時にメディアとしての映像はいかに発展してきたかを分析、考察する。					○	◎							
47	全学部共通基盤科目群	音楽史	2	選択					本授業では、世界の音楽産業に最も大きな影響を与えてきたポピュラー音楽を対象とし、その歴史的展開を概説するとともに、ジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴や成立した時代について学ぶことを目標とします。					○	◎							
48	全学部共通基盤科目群	政治学入門	2	選択	○				戦後日本が一つのモデルとしたアメリカの民主政治がどのように機能するのかを学ぶことによって、政治学を学ぶのに必要な基礎知識を習得することを旨とする。具体的には、第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑制の必要性を理解する。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら把握する。第三に、現代アメリカ政治の分極化の背景を知り、今日の民主主義諸国における政治の混迷の原因を考える。	◎				○								
49	全学部共通基盤科目群	経済学入門	2	選択	○				本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基本的な概念や思考方法を習得することを目的とする。経済学を学ぶと経済学的な視点から論理的な意思決定ができるようになる。講義では日常の出来事や時事ニュースも題材にして、経済の仕組みや専門用語をわかりやすく解説する。また、経営学との違いにも触れつつ、ビジネスの現場でも応用可能な経済学的思考法を紹介する。	◎				○								
50	全学部共通基盤科目群	社会と経営	2	選択	○				企業経営とは、社会のニーズに対応する商品やサービスを開発し、それらの提供により価値提供を図りながら継続的、かつ発展的に活動してゆくことである。本講義は「企業価値」の側面からアプローチする新しいスタイルの経営学入門講座である。経営学の基本的知識の習得を到達目標とし、同時に社会と企業経営の関わりについて考察することを本講義のテーマとする。	◎				○								
51	全学部共通基盤科目群	社会と会計	2	選択	○				本授業では会計学の基本的なテキストを用いた上で、以下の3点を目的に開講する。1）財務諸表に企業の在り方や活動がどのように記載されるのかを大まかに理解する。2）社会人にとって必携の書である日本経済新聞の企業欄や証券欄を読みこなせる会計の語彙力を身に付ける。3）より高度な会計学を学ぶ動機付けをする。授業はオンデマンド形式で行い毎回のテストと課題提出を求める。また期末テストとしてはレポートの提出を課す。	◎				○								
52	全学部共通基盤科目群	マーケティング論	2	選択	○				成熟した消費社会において、企業が顧客ニーズを捉え、価値を創造・提供し、競争優位を築くためのマーケティングの基礎を学びます。本授業では、マーケティング・ミックス（4P）、STP分析、製品ライフサイクルといった基礎知識はもとより、消費者行動の分析、製品、ブランド、価格、プロモーション、流通といったマーケティング戦略の実践面も具体的な事例(ケース)も紹介しながら習得し、問題解決能力を養います。	◎				○								
53	全学部共通基盤科目群	広告戦略論	2	選択					広告業界の仕組みや役割を理解し、広告が完成するまでの流れを学ぶ。マスメディアを中心に、最新のデジタルメディアの動向や広告会社のコンテンツ戦略を考察する。広告代理店や制作会社など関連業界に関心を持ち、将来進路として志す学生に有益な知識と実践的視点を提供する。	◎					○							
54	全学部共通基盤科目群	社会学	2	選択					「社会とは何か」という根本的な問いを出発点に、個人の総和を超えて存在する社会の特質を理解する視点を養うことを目的とする。日本人やアメリカ人といった集団に関する言説の背景を手がかりに、なぜそのような「社会像」が語られるのかを考察する。授業はテーマごとに連続講義を行い、必要な情報や知識を提供すると同時に、受講者自身が思考を深める機会を設ける。理解度確認やレポートを通じて、多様な視点から社会を捉える力を培う。	◎			○									
55	全学部共通基盤科目群	社会調査	2	選択	○				この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。		◎			○								
56	全学部共通基盤科目群	法律学概論	2	選択	○				市民社会の基盤を支えるものとして、法律制度が重要な役割を担う。本講義は、受講者諸君がリーガルマインドを養成するため、法律に関する基礎知識を教養として身に付けることは、講座の目標である。本講座は、憲法・民法・商法の学者が共同編纂したテキストを活用し、法とは何かを初めに、法と裁判、日本の裁判制度と法解釈、さらにはいくつか重要な実定法を紹介すると共に、法令制定のプロセスも紹介していく予定。	◎				○								
57	全学部共通基盤科目群	日本国憲法	2	選択	○				日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論究する。	○		◎										
58	全学部共通基盤科目群	著作権	2	選択					著作権や知的財産権の重要性にも触れ、自身の創造的な活動を社会で展開するための基盤を築く。	◎				○								
59	全学部共通基盤科目群	社会福祉学A	2	選択					21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	◎				○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10			
60	全学部共通基盤科目群	社会福祉学B	2	選択					本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。	◎				○								
61	全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論A	2	必修	○		○		ICTの進展に伴い、組織における情報化が深化してきている今日の社会においては、われわれ一人一人がICT活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。本授業では、情報学の学びにおける基礎を学修する。産官学が連携して推す国家試験である「ITパスポート試験」で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。	◎				○								
62	全学部共通基盤科目群	世界遺産のいま	2	選択					「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義は、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGS」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合い、その深い理念を理解することを目的とする。						○	◎						
63	全学部共通基盤科目群	美学・芸術学	2	選択					「美」の理念（美しさ、立派さをうちに含む理念）という人間性の共通基盤に対する理解を深め、個々の人間の内生きていく創造性を探ることをねらいとする。具体的には、美術・芸術作品の身近な経験をてがかりにその社会的・文化的・歴史的な存在条件を考察し、想像力を活かして過去の人々の同様の存在条件へと考察をひろげる。この作業を通して、美術・芸術一般の成立条件、さらには、「美」とはなにか」という問いへと迫る。						○							
64	全学部共通基盤科目群	表象文化研究	2	選択					映画、アニメ、舞台、音楽、マンガなど、3分野にまたがる多様なメディア芸術作品を多角的に分析し、その表現意図、構成、社会的背景を深く考察する。具体的には、物語構造、視覚表現、音響デザイン、そして作品が生まれた時代背景や社会情勢がどのように影響しているかを深く掘り下げ、批評的思考力を養う。単なる作品鑑賞に留まらない深い考察を通じて、自身の制作活動に活かす。						○	◎						
65	全学部共通基盤科目群	世界の文学	2	選択					「世界の文学」といえば、世界の料理を食べ歩く番組のように案内人の趣味を披瀝する科目かと思われるかもしれない。しかし文学を味わい比べるためには、一個人の趣味を超えて比較の観点と基準を他者と共有しうるかを構想し、その構想を他者とともに吟味しなければならない。それゆえ「世界の文学」は、近代の小説、詩、戯曲のようなジャンルを網羅みにせず文学とは何かを問い、文学の世界性をつかもうとする試みである。						○	◎						
66	全学部共通基盤科目群	演劇研究	2	選択					演劇・ミュージカル・舞踊といった舞台芸術を対象に、その歴史・構造・表現方法を多角的に学び、舞台ならではの表現の力と社会的役割を理解することを目的とする。日本の伝統芸能から現代演劇、海外の主要作品やクリエイターまで幅広く取り上げ、作品や上演の背景を考察する。また、舞台表現に欠かせない俳優・演出家・ダンサーなど創り手の関わりを理解し、舞台芸術の魅力と可能性を検討する。映像資料や音楽資料も活用しつつ、受講者自身の体験や議論を通じて、舞台芸術を学ぶ基礎的視座を養う。							○	◎					
67	全学部共通基盤科目群	古典芸能研究	2	選択					伝統芸能の一つである落語を題材に、その歴史と実容を学び、口承文化の継承や現代的意義を考察する。名作や新作落語の内容を分析し、日本人の価値観や社会観の理解を深めるとともに、実際の演じ方を体験することで、芸能の構造や表現を美感的に学ぶ。							○	◎					
68	全学部共通基盤科目群	文学を読む	2	選択					本授業は、日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的手易い短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的観念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。							○	◎					
69	全学部共通基盤科目群	教育学	2	選択					教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。	◎		○										
70	全学部共通基盤科目群	心理学	2	選択					心理学は、人の意識や精神、それらの表れとしての行動を研究し、人間の心の理を科学的に解明しようとする学問である。本講では、科学として人の「こころ」の様々な側面を探究していくことをテーマに、人の意識や精神活動及び心のケアとサポートについての理解を深めることを目標とする。心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を通して、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。	◎		○										
71	全学部共通基盤科目群	基礎の数学	2	選択					この授業では、採用テストSPI3の非言語分野、公務員試験の数的処理、情報科学に関連する数学の問題など、社会で必要とされる基礎的な数の問題を扱う。出題された内容をすべて解けるようになることが到達目標である。授業はオンデマンド形式の録画を視聴しながら取り組む演習方式である。毎回、講師がその回のトピックと例題を説明した後、受講者は出題された演習問題を解き、講師がその解説を行う。毎回小テストを課す。				◎		○							
72	全学部共通基盤科目群	ジェンダー論	2	選択					女性解放運動（フェミニズム）の歴史を学ぶことを通じて、ジェンダー研究がどのように発展してきたのかを理解する。そして現代社会において、ジェンダーに係る諸問題が極めて多様であることを様々な具体例を通じて学び、諸問題を解決していくための方策を各自が考案する。授業はオンデマンド形式で実施し、関連する資料を適宜示しつつ進めていく。	◎		○										
73	全学部共通基盤科目群	根拠への問い-哲学へのとびら	2	選択					みずから問いを引き上げ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一步でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持っていて、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。						○	◎						
74	全学部共通基盤科目群	異文化通成論	2	選択	○	○	○		本授業は、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の視点から異なる文化環境での適応を考察する。まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験に伴う不適応の実態と要因を解説する。次に、カルチャーショックの諸相やU字曲線などの適応モデルを紹介し、自身を知ることの重要性も習得させる。最後に、適応の条件や成長のプロセスとしての意義を理解し、異文化適応力を養うことを目標とする。						○	◎						
75	全学部共通基盤科目群	宗教学概論	2	選択					日本人は無宗教とされるが、寺院の数だけでもコンビニの総数を上回る。今日、多文化共生が叫ばれるが、文化と宗教の関係は密接である。本講義では、一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問うていく。また、「宗教」からさまざまな現代問題にも迫っていく。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義する。						○	◎						
76	全学部共通基盤科目群	倫理学概論	2	選択					道徳的指令集としての「倫理学」が、「善」や「正義」は個人や文化によって異なり明確な答えがないなどの理由によって否定されてきている現状を理解した上で、我々が日々倫理的に中立的であり得ているのかを再吟味する。その上で、哲学・倫理学の歴史的な英知を基に、21世紀における我々の社会・国家・世界における現実への顕在的・潜在的関与を自分自身で再構築し、それを日々の生活で実践していくことを追究する。						○	◎						
77	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学A	1	選択	○	○			スポーツ実技科目である。スポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得する。主に球技等のチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。さらに、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法で生涯にわたってスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。			◎		○								
78	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学B	1	選択	○	○			スポーツ実技科目である。スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれるが、スポーツを定期的に行う者は大学入学時から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するようと思われる。本授業では主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。				◎		○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0
79	全学部共通基盤科目群	しゃべりのスキルUp I	2	選択					社会生活やキャリア形成に不可欠な会話力を多角的に養う。発声・滑舌、文章構成力、語彙力、雑談力、表現力などを段階的に学び、プレゼンや面接で説得力ある言葉を使える力を身につける。双方向型とオンデマンド型を組み合わせ、インプットとアウトプットを実践的に強化し、即戦力となる表現スキルを習得する。					○	◎				
80	外国語科目群	Fundamentals of English I	2	必修		○			高校英語で学んだ知識を基盤にし、それを実際のコミュニケーション能力として発揮することを目指す。積極的な参加が求められ、ペアワークやグループワークを通して学習する。各モジュールの初めに目標を設定し、終了時に振り返りを行い、自律的な学習力を養う。テキストに関連するオンライン課題による予習・復習を定期的に行い、ライティング課題やTOEIC課題を行い、最終レポートを提出する。				◎	○					
81	外国語科目群	Fundamentals of English II	2	選択		○			Fundamentals of English Iで学んだ基礎を踏まえ、英語を使う自信と使う力をさらに広げることを目指す。授業では協働的な活動を多く取り入れ、ディスカッションや課題解決を通して表現力を磨く。オンライン課題による予習・復習を継続し、反復を通じて定着を図る。学期中には複数のライティング課題やTOEIC関連の練習を行い、最終的にレポートをまとめて提出する。				◎	○					
82	外国語科目群	Oral Fluency I	2	選択		○			Oral Fluency IIは、学生のスピーキング力、とくに会話やディスカッションの能力を高めることを目指す科目とする。英語で会話や議論を行う方法を学び、流暢さを養いながら幅広い会話ストラテジーを身につけることを目的とする。さらに、日常的な話題に関する新しい語彙や表現を習得し、英語での討論力を強化する。				◎	○					
83	外国語科目群	Oral Fluency II	2	選択		○			Oral Fluency IIは、Oral Fluency Iで身につけた力をさらに広げるスピーキング・会話・ディスカッションの科目とする。ペアや少人数グループでのやり取りを通して積極的に発話の機会を持ち、語彙や会話ストラテジーを学び、リスニング練習も行う。継続的な練習によって表現力と理解力を伸ばし、履修後には自分の英語力にもっと自信を持てるようになる。				◎	○					
84	外国語科目群	TOEIC Preparation A	1	選択		○			この授業では、語彙力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に語彙を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に語彙を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。				◎	○					
85	外国語科目群	TOEIC Preparation B	1	選択		○			この授業では、語彙力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に語彙を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に語彙を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。				◎	○					
86	外国語科目群	TOEIC Preparation C	1	選択		○			この授業では、語彙力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に語彙を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に語彙を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。				◎	○					
87	外国語科目群	TOEIC Preparation D	1	選択		○			この授業では、語彙力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に語彙を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に語彙を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。				◎	○					
88	外国語科目群	English for Specific Purposes A	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.					◎	○				
89	外国語科目群	English for Specific Purposes B	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.					◎	○				
90	外国語科目群	English for Advanced Studies A	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.					◎	○				
91	外国語科目群	English for Advanced Studies B	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.					◎	○				
92	外国語科目群	中国語I	2	選択		○			中国語Iを履修した学生を対象とし、中国語の発音、語彙、文法項目、会話、練習問題を通じて学習を深める。基礎的な中国語の文法を学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力をより強固にすることを目指す。さらに日常生活において頻出する会話表現を積極的に取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を養成する。また、中国語検定試験対策の指導を行う。					◎	○				
93	外国語科目群	中国語II	2	選択		○			中国語IIを履修した学生を対象とする。中国語I・IIで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に頻出する会話表現を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の運用力、コミュニケーション力を向上させることを目標とする。授業終了時点で中国語検定準4級あるいは4級の受験レベルに到達することを目指す。					◎	○				
94	外国語科目群	韓国語I	2	選択		○			ハングルの仕組みや基礎的な文法事項を理解し、自己紹介や挨拶表現、趣味や居場所など身近な話題について、簡単な会話や短い作文を行う力を養う。授業では繰り返しの練習を通して発音や表現に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を培うことを目標とする。					◎	○				
95	外国語科目群	韓国語II	2	選択		○			「韓国語I」を履修した学生を対象とし、そこで学んだ内容を確実に復習した上で、さらに多様な表現や文法事項を習得する。授業では実際の会話練習や文章作成を通じて運用力を高め、より幅広い場面において適切にコミュニケーションを行える基礎を築くことを目標とする。					◎	○				
96	外国語科目群	スペイン語I	2	選択		○			This is an introduction to Spanish language fundamentals. Students learn basic vocabulary, present tense verbs, and essential grammar structures. Focus on simple conversations, greetings, family, numbers, and daily activities. No prior Spanish knowledge required. Prepares foundation for continued study.					◎	○				
97	外国語科目群	スペイン語II	2	選択		○			This builds upon Spanish I foundations. Students expand vocabulary and learn irregular verb conjugations in the present tense. Emphasis on pronunciation and basic listening comprehension. Increased emphasis on speaking and listening skills through interactive exercises and basic conversations about familiar topics.					◎	○				
98	外国語科目群	ドイツ語I	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（文タイプと動詞の位置・否定文・平叙文・疑問文・人称代名詞・動詞の現在人称変化・sein, haben・名詞の性・名詞格変化・人称代名詞格変化）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。					◎	○				
99	外国語科目群	ドイツ語II	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（動詞の規則変化・名詞の格変化・代名詞の格変化の復習に続き、不規則動詞の現在人称変化・名詞の複数形・否定冠詞・名詞の2格、3格）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。					◎	○				

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10			
100	外国語科目群	フランス語I	2	選択		○			この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。				◎	○								
101	外国語科目群	フランス語II	2	選択		○			本科目はフランス語Iを修得した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。引き続き、基本的な語彙と文法を習得することを旨とする。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を引き続き養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。				◎	○								
102	外国語科目群	ハンガリー語I	2	選択		○			初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージシャワー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。				◎	○								
103	外国語科目群	ハンガリー語II	2	選択		○			「ハンガリー語I」に続きハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージシャワー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。				◎	○								
104	外国語科目群	ポーランド語I	2	選択		○			本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力も紹介する。				◎	○								
105	外国語科目群	ポーランド語II	2	選択		○			本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのビジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。				◎	○								
106	外国語科目群	チェコ語I	2	選択		○			チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身につける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。				◎	○								
107	外国語科目群	チェコ語II	2	選択		○			正しい発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身につける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。				◎	○								
108	外国語科目群	日本語I	2	選択		○			この授業は、日本文化や社会への理解を深めながら、日本語による実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。日常生活やニュースなどを題材に、生の日本語を読み、聞き、話し、書く活動を通じて、各回のCan-do目標を達成する。すべてのCan-doを達成することで、留学生生活をより充実させる力を身につける。				◎	○								
109	外国語科目群	統合日本語I	2	選択		○			この授業では、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。				◎	○								
110	外国語科目群	日本語II	2	選択		○			この授業は「日本語I」に続き、日本での留学生活に必要な日本文化や社会への理解をさらに深めながら、日本語の実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。初対面、食文化、音楽、旅行などの社会文化をテーマに、生の日本語を使って4技能を向上させる活動を行い、各回のCan-do目標の達成を目指す。特に話す力（会話・独話）の向上に重点を置き、自分の意思や考えを説明し、その理由を述べる力を育てる。				◎	○								
111	外国語科目群	統合日本語II	2	選択		○			この授業では、「統合日本語I」に続き、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。				◎	○								
112	外国語科目群	日本語アカデミック・ライティング	2	選択		○			この授業は、アカデミックなライティング力を養うことを目的とする。日本の大学における一般的な日本語のレポートの書き方を学びながら、テーマについて考え、それをレポートにまとめる練習を行う。まず自分の関心に合わせてテーマを選び、必要な調査を行い、調べたことをもとに考察し、1つのレポートを完成させる。大学のレポートに求められる論理の立て方、資料の集め方、引用の方法も学ぶ。				◎	○								
113	外国語科目群	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択		○			この授業は、大学で求められるアカデミックなスピーキング力を養うことを目的とする。自分の考えをスライドを用いて口頭で発表する力を身につけるため、発表テーマの設定、考察や結論の構成、スライドと原稿の作成、発表時の話し方までを段階的に学ぶ。授業では、発表準備と練習を重ねながら、論理的に伝える力と表現力を高める。大学生として必要な発信力を育成し、主体的に意見を述べる力を養う。				◎	○								
114	外国語科目群	社会と文化の日本語A	2	選択		○			この授業は、社会や文化に関する題材を通じて日本語の運用力を高めることを目的とする。新聞や雑誌の記事を精読・速読し、語彙や文法を習得しながら社会的テーマを理解する。映像作品や漫画を用いた議論や発表で表現力を養い、科学技術に関する情報を扱うことで論理的に説明する力を育成する。読解・議論・論文作成を柱とし、4技能を総合的に伸ばすことを目標とする。				◎	○								
115	外国語科目群	社会と文化の日本語B	2	選択		○			この授業は、日本の社会や文化に関する映像や動画を題材に、日本語の運用能力を高めることを目的とする。授業では、映像作品から表現や語彙を学び、ペアワークやグループワークを通じて議論や発表を行う。批判的思考力や問題解決能力を鍛え、他者の意見を理解しながら自分の考えを伝える力も養う。これらの活動を通じて、社会や文化を理解しつつ積極的にコミュニケーションを取れる日本語力を身につけることを目標とする。				◎	○								
116	キャリア形成科目群	地域ボランティア研修	2	選択	◎	○		○	バランスの取れた福祉社会の形成のためには、行政による福祉事業等の公助のほかにも、住民同士の支えあいである互助活動が果たす役割が欠かせない。本授業では互助活動のうち、ボランティア活動の実践体験を通じて、地域活動に関わる多様な関係者の立場や状況、考え方を理解する力を培うとともに、活動の計画や実施、改善等の企画運営能力の向上を図る。	◎		○	○									

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10		
129	キャリア形成科目群	ゼミナルC	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルCでは、問題の詳細を理解するための研究方法の理解、提示した問題の詳細を理解するために、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を修得し、活用できるための基礎的な理解ができるようになることを目指す。		○		○	◎							
130	キャリア形成科目群	ゼミナルD	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルDでは、問題の詳細を理解するための研究方法の理解、提示した問題の詳細を理解するために、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、ゼミナル論文のテーマを設定し、計画できるようにすることを旨とする。		○		○	◎							
131	キャリア形成科目群	ゼミナルE	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルEでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析することを旨とし、それを文章としてまとめていく力も合わせて養成する。		◎	○	○								
132	キャリア形成科目群	ゼミナルF	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルFでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析し、考察することを旨とし、それを文章としてまとめていく力も合わせて養成する。		◎	○	○								
133	キャリア形成科目群	ゼミナルG	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルGでは、提示した問題の理解をふまえ、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用し、調査を実施、得られたデータを分析し、考察することを旨とし、それを文章としてまとめ、研究結果を発表するためのプレゼンテーション能力も合わせて養成する。		○	○	◎								
134	キャリア形成科目群	ゼミナルH	1	必修		○			ゼミナルは、福祉総合学科のキャリア形成教育に位置づけられている。将来、社会（福祉現場や公務員、企業などの就職先）で問題を見出し、分析、問題解決できる能力の習得を目指す。特に、ゼミナルHでは、今まで取り組んできた問題の分析と理解、問題解決の方法論の理解、問題解決のプレゼンテーションの理解などを通して習得した能力を整理し、問題解決能力の総合的な理解をし、個人のキャリア形成に繋げていく能力の育成を目指す。		○	○	◎								
135	キャリア形成科目群	専門日本語(福祉・介護)	2	選択					福祉（介護・保育）現場に必要な日本語や表現を習得することを目標とする。 介護・保育の現場における1日の流れを把握し、要所所で必要な知識、日本語を勉強し、実践する。												
136	キャリア形成科目群	キャリア日本語(就職)	2	選択					卒業後の進路（主に就職）に対応できるよう、実践を通して幅広い知識と技法を身につける。特に、（日本語）コミュニケーション力、異文化適応力、ビジネスマナーを含めた社会人基礎力の修得に重点を置く。												
137	キャリア形成科目群	キャリア日本語(進学)	2	選択					この授業は、論文の書き方と大学院進学準備のための科目である。大学院進学のための必要なスキルと論文の書き方を主に学ぶ。具体的には、大学院の探し方、大学院の分析、資料の取り寄せ方、志望動機の書き方などを学ぶ。この授業では、読む・話す・書く・聞くの4技能をバランスよく学びます。専門については、学習者が自ら資料を探し、発表し、学部で身につけておかなければならない自分の専門について、語れる、発表できる、論じられる内容の知識を身につける。					○	◎						
138	専門基礎科目群	人間学	2	選択	◎	○			福祉の実践を行う際には、その場に関わる全ての人々の尊厳・権利について深く洞察し、それに配慮することが求められる。もはや援助者側の視点(思い込み)や論理のみで支援を実践することは社会的に許されないだけでなく、様々な問題をひきおこす要因となる。本科目では、履修者が人権や人間の尊厳、社会において人権が侵害される構造、問題の解決に寄与する概念や方法論に関して理解し、現場においてそれらを尊重しながら福祉実践を行うのに必要な考察力を獲得することを目標とする。	◎		○									
139	専門基礎科目群	ジェンダーと福祉社会	2	選択		○			ジェンダーと福祉社会では、子ども、女性、家庭、社会保障、介護、保育に関するジェンダーの課題について基礎知識を身に付け、主体的に活動できる力を養う。特に、女性解放運動、ジェンダー平等の取り組みの歴史について理解する。ついで、内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」などを活用し、子ども期、学校生活、女性就労、セクシュアリティ、家庭生活、育児、中高年期、福祉国家論などにおけるジェンダーの諸課題について理解することを旨とする。		○				◎						
140	専門基礎科目群	サステイナブル社会論	2	選択	◎	○			人間としての尊厳ある豊かな生活を送るためには、持続可能（サステイナブル）な社会の構築、地域づくりが求められている。地域社会で生じる問題を解決し、発展を実現するためには、地域を構成する主体が一對となって課題への認識を深めてゆくこと、問題解決に向けて目標を明確に定めていくことが重要である。本科目では地域コミュニティと福祉の視点から持続可能な社会づくりの実践がどのように展開され、いかなる役割・意義を持つのかを学習することを旨とする。	◎	○		○								
141	専門基礎科目群	福祉文化・社会論	2	選択		○			グローバル社会で活躍するには必須となる異文化コミュニケーション能力を養うには、異国の社会文化を知ると同時に、自国の社会文化に対する認識を深める必要がある。本授業では、日本の政治・経済・宗教・社会構造・風俗習慣や日本人の思考様式、行動様式等、日本社会文化や日本社会が抱えている問題点について勉強すると同時に、文化の多様性や異文化コミュニケーションについても検討し、グローバル社会で活躍するために必要な国際人としての意識を養い、異文化コミュニケーション能力を高める。												
142	専門科目群	ソーシャルワークの基礎と専門職I	2	選択	◎				複雑・多様化する社会状況にあって、新しく生じる生活上の困難や問題を解決し相談援助する福祉専門職として、その役割と意義を理解する。そのうえで具体的援助の方法としてのソーシャルワークについて、ソーシャルワークを構成する要因、社会資源の活用、ソーシャルワークの成立過程、社会不安とソーシャルワークについて学び、「地域を基礎としたソーシャルワーク」についての理解を深める。将来、さまざまな福祉領域で実践的に活動できる資質を養う。	◎			○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10				
156	専門科目群	障がい児・者福祉サービス	2	選択					「障害とは何か」という問いは、深いテーマである。授業では、「生きづらさ」を抱えた人へのソーシャルワークについて学んでいく。主に数多い事例を通して考える授業である。本授業の到達目標は、障害者福祉を通して、ソーシャルワークについて考えることであり、その詳細は以下の通りである。①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。														
157	専門科目群	司法福祉	2	選択					本授業は、犯罪・非行という社会現象を福祉的視点から考え、加害者の更生や被害者の支援等について理解を深めることが目的である。司法福祉論の基礎を知り、更生保護制度はもちろん、犯罪そのものの意味や人を処罰することの意味を考える。少年や障害者、高齢者と犯罪との関連や犯罪被害者支援など今日的課題として考える力を養う。到達目標は以下の通りである。①相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。②更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。③刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。④司法関連の支援をソーシャルワーカーが行うことの意義について考えることが目標である。			◎					○						
158	専門科目群	女性福祉論	2	選択		○			ジェンダー格差の大きな日本社会における女性の生活問題・生活困難を理解し、実態的に女性に対する福祉を担ってきた婦人保護事業の現状と課題から、女性福祉を考える。この授業では、女性福祉に関する専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。なお到達目標は以下の通りである。1 女性問題の背景に存在している性差別的な社会構造を理解する。2 現行社会福祉法体系における女性に対する支援策とその課題について理解する。3 社会福祉分野をジェンダー視点から見直す力を養成する。			○	◎				○						
159	専門科目群	国際福祉論	2	選択		○			本講義では、福祉実践が国境を超える際に考慮・検討すべき要素について考察する。次に国際支援の事例検討を行い、どのような理念、認識のもとでなされるべきか、どのような工夫が必要か、可能かについてディスカッションを通して理解を高めていく。最後に海外における先進的な福祉政策・実践の事例をとりあげ、その特徴を解説するとともに、日本を含めた他国に導入する際の問題点や改善点について考察する。到達目標は、1) 国境を越えて実施される支援についてどのような認識で取り組むべきなのかを考察し、文化や価値観、社会状況が異なる人々に手を差し伸べることができる基礎的な力を身に付けること、2) 他国での先進的な福祉実践について、表面だけではなくその理念、仕組み、問題点を理解し、自国への応用の可能性や修正すべき点を考察する力を身につけることである。														
160	専門科目群	貧困に対する支援論	2	選択					生活保護や低所得者対策については、ここ数年で大きな改正や新たな制度が創設されている。この授業では、どのような理由で貧困対策が講じられてきたのか、そもそも貧困とは何を指すのかを理解する。その後、生活保護制度が成立した経緯やその後の変遷とともに、時代と社会が変容する中で低所得者に対してどのような対策が講じられてきたのかを理解する。到達目標は、1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。2. 貧困の歴史と貧困観の変遷について理解することができる。3. 貧困にかかる法制度と支援の仕組みについて理解することができる。4. 貧困による生活課題を踏まえ、福祉専門職としての適切な支援のあり方を理解することができる。														
161	専門科目群	社会保障論I	2	選択	◎				本授業では、わが国の社会保障制度の概念や対象及び理念を展開過程と共に理解した上で、社会保障制度の体系と概要を学び制度の置かれている状況や課題を考察する。到達目標は以下の3点である。①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。②公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。③社会保障制度の体系と概要について理解する。なお、「社会保障論I」とともに単位修得することで、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。	◎		○											
162	専門科目群	社会保障論II	2	選択					本授業は、社会保障論Iの学びを踏まえ、少子高齢社会における社会保障の意義を理解したうえで制度を支える財政の仕組みを理解し、諸外国の制度の概要を参考としながら、持続可能な制度体系に求められるものは何かを検討するものである。到達目標は以下の通りである。①現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。②社会保障制度の財政について理解する。③諸外国における社会保障制度の概要について理解する。なお、「社会保障論II」とともに単位修得することで、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。			◎			○								
163	専門科目群	地域福祉の理論と方法I	2	選択					現代社会における地域福祉の目的、意義、その方法について理論と実践の両面から学んでいく。地域福祉の歴史的展開を踏まえ、社会サービスとの関連で地域包括的ケアの在り方と個人が地域において自立的生活を可能にするための支援方法を示し、地域福祉の主体形成について考察する。①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。③包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。④地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。なお、「地域福祉の理論と方法II」を併せて単位修得することで社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。														
164	専門科目群	地域福祉の理論と方法II	2	選択		○	○		この授業は地域共生社会の中でソーシャルワーカーが備えておくべき主にマクロ的な知識である福祉行政システム、福祉計画の意義と種類・策定と運用、地域共生社会の実現に向けた包括的実施体制、災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する。到達目標は「1. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。2. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。3. 包括的支援体制の考え方と、多機関協働の意義と実際について理解する。4. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。」である。なお、「地域福祉の理論と方法I」とともに単位修得することで社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目となる。														
165	専門科目群	ソーシャルワークの基礎	1	選択	◎	○			ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に習得し、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養するため、以下の4点を目標とする。①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	◎		○				○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10				
166	専門科目群	ソーシャルワーク演習I	1	選択	◎	○			この授業では、「ソーシャルワークの基礎」をふまえ、ソーシャルワーカーが取り組む課題を多角的に分析し、ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。特に、1) ケースの発見・インターク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケアについて理解する。2) 事例を活用した複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について理解することを目指す。	◎		○			○								
167	専門科目群	ソーシャルワーク演習II	1	選択		○			この授業では、「ソーシャルワーク演習I」をふまえ、ソーシャルワーカーが取り組む課題を多角的に分析し、ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。②地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。特に、1)アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワークング・コーディネート・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーションの視点・ソーシャルアクションについて理解する。2) 地域福祉の基盤整備と開発について理解することを目指す。		◎	○			○								
168	専門科目群	ソーシャルワーク演習III	1	選択		○			この授業では、「ソーシャルワーク演習II」をふまえ、ソーシャルワークの理論と実践とを統合する力を養成する。ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。②実践の質の向上を図るため、スーパービジョン、コンサルテーションについて体験的に理解する。特に、1) ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークの対象に対する実践モデルを適用した支援展開について理解する、2) スーパービジョン・コンサルテーションについて理解することを目指す。			○	◎		○								
169	専門科目群	ソーシャルワーク演習IV	1	選択		○	○		この授業では、「ソーシャルワーク演習III」をふまえ、ソーシャルワークの理論と実践とを統合する力を養成する。ミクロからマクロレベルの実践領域に対して、ソーシャルワークの価値、知識、技術を様々な事例を活用しながら具体的に転換できる力を養うため以下2点を目標とする。①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。②ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。			○	◎		○								
170	専門科目群	ソーシャルワーク実習I	6	選択		○	○		本授業は、「厚生省告示第203号および265号」指定施設において必要な実習を行うものであり、80時間相当の配属実習を実施する。授業の目的・ねらいは以下の通りである。①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。		◎	○	○										
171	専門科目群	ソーシャルワーク実習II	2	選択		○	○		本授業は、「厚生省告示第203号および265号」指定施設において必要な実習を行うものであり、60時間相当の配属実習を実施する。授業の目的・ねらいは以下の通りである。①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。		◎	○	○										
172	専門科目群	ソーシャルワーク実習指導I	1	選択		○	○		本授業はソーシャルワーク実習Iに伴う科目であり、実習は必ず実習指導を受けながら進められる。実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術の理解を深めるための個別指導及び集団指導を行う。この授業の到達目標は、1. ソーシャルワーク実習Iの意義を理解し、説明できる。2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢について説明できる。3. ソーシャルワークに係る知識・技術を具体的に実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基本的な能力を身につけることを目指す。		◎	○	○										
173	専門科目群	ソーシャルワーク実習指導II	1	選択		○	○		本授業はソーシャルワーク実習IIに伴う科目であり、実習は必ず実習指導を受けながら進められる。実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術の理解を深めるための個別指導及び集団指導を行う。この授業の到達目標は、1. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を意識した行動ができる。2. ソーシャルワーク実習IIを振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて整理できることを目指す。		◎	○	○										
174	専門科目群	ソーシャルワーク実習指導III	1	選択		○	○		ソーシャルワーク実習指導I・IIの学びを基盤として、実習事前学習として実習の意義の理解、ソーシャルワークに係る知識と技術を実践的に理解するため、実習中・後には実習を振り返り、実習での体験を概念化し理論化するための個別指導及び集団指導を行うものとする。到達目標は、1. ソーシャルワーク実習IIの意義を理解し、説明できる。2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を意識した行動ができ、自身の行動の根拠を説明できる。3. ソーシャルワークに係る知識・技術を具体的に実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を身につけて実践できる。4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる自分自身の総合的な能力を言語化できることを目指す。		◎		○			○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探究することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10		
175	専門科目群	福祉専門研究	1	選択	◎	○			本科目では、まず国家試験対策に必要な知識を体系的に学習し、なおかつ適切な形でアウトプットできるような学習法について学ぶ。続いて、社会福祉士・精神保健福祉士といった国家資格の共通科目における出題傾向・正解率などを参照しながら、ソーシャルワーカーとしての知っておかなければならない知識について重点的に解説する。 (オムニバス方式/全7回) (1 堀 千鶴子 /1回) 社会福祉原論の基礎を解説する。 (3 清水 正美 /1回) 福祉政策及び貧困に対する支援の基礎を解説する。 (番号?小島 克久/1回) 社会保障の基礎を解説する (11 馬場 康徳/2回) 地域福祉の基礎を解説する。また、授業全体を振り返り、今後の課題を説明する。 (8 小川 智子 /2回) 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験について概要と枠組みを説明し、権利擁護の基礎を解説する。	◎	○										
176	専門科目群	福祉応用研究I	1	選択		○			本科目では、福祉専門研究で学習した国家試験対策に必要な知識を体系的について適切な形でアウトプットできるような学習法について復習する。そのうえで社会福祉士・精神保健福祉士国家資格の共通科目における出題傾向・正解率などを参照しながら、ソーシャルワーカーとしての知っておかなければならない知識のなかでも、現役受験生に欠けがちな基本的な項目について、重点的に解説して理解を深め、国家試験合格に向けた基礎的な知識の土台を作る。		◎		○								
177	専門科目群	福祉応用研究II	1	選択		○			福祉応用研究Iの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、過去の国家試験から頻出テーマを抽出し、頻出テーマについて学習することを通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらおう。		◎		○								
178	専門科目群	福祉応用研究III	1	選択		○			福祉応用研究IIの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、過去の国家試験の頻出テーマに関連する過去問の演習を反復して行うことを通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらおう。		○		◎								
179	専門科目群	福祉応用研究IV	1	選択		○			福祉応用研究IIIの学習成果を前提として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格をもち、かつ現役での合格を目指している者を対象に、①過去の国家試験から頻出テーマを抽出しこれについて学習し、②頻出テーマに関連する過去問の演習を反復して行う。①②を通じて、国家試験に対応するために効率的に学習を行うのと同時に、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として必要な知識の定着化をはかっていく。頻出テーマの抽出と過去問解説は受講生に行ってもらおう。毎月1回の模擬試験を実施することにより頻出事項を繰り返し覚え、知識の定着を図る。		○		◎								
180	専門科目群	社会福祉経営	2	選択					ソーシャルワークを展開するための経営基盤について知り、新たな発想で新事業を立ち上げることができるようになることが目標である。福祉サービス提供組織はさまざまである。多様な組織・団体について理解し、その経営について学ぶ。担当教員はNPO法人を経営しており、実際の経営の仕方をもとに授業を展開する。一般の経営方法と福祉サービスの経営方法の相違点を意識し、福祉経営のあり方について考える。本授業はソーシャルワークを展開するための経営基盤について知り、新たな発想で新事業を立ち上げることができるようになることを目標とし、詳細な到達目標は以下の通りである。①福祉サービスに係る組織や団体について理解する。②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。③福祉サービスの経営と管理運営について理解する。		○	○		○							
181	専門科目群	医療ソーシャルワーク論	2	選択					本科目は、ソーシャルワーカーが対人援助を実践していくために必要となる保健医療サービスの実態と活用について学ぶことを目的とする。誰もが何らかの病気になったり、障害を抱えたりするときに保健医療サービスが必要となる。こうした状況下では、病気そのものの治療だけでなく、クライアントの生きる意味が問われることとなる。医療ソーシャルワークの役割は、このような際にクライアントの生活の連続性を支え、自分らしく生きられることをサポートすることである。そのために本講義では人生の質を高めるという視点から保健医療サービスの実態と活用を学ぶ。相談援助活動を行う専門職として必要な保健医療サービスに関する基礎的な知識を身につけ活用できるようにする。		◎		○		○						
182	専門科目群	権利擁護と成年後見制度	2	選択		○			社会福祉の実務は法律を根拠としている。法律の理解を深めながら、特に社会福祉士が担い手として期待されている成年後見制度について学び、社会福祉事業と権利擁護のあり方や課題を考察する。本授業は、基本的に講義形式をとるが、グループディスカッションも行う権利擁護を取り巻く近年の状況への理解を深める。学習到達目標は、①憲法、民法、行政法について理解することができる。②成年後見制度の概要、仕組み、利用現状および課題、最新の動向などについて理解することができる。③成年後見制度に関連する制度（例、虐待防止、消費者、差別解消など）について理解することができる。				○			◎					
183	専門科目群	Oral English for Children A	2	選択					この授業では、子どもたちに英語を教える際に必要となる教授法やテクニックを紹介する。毎週、教授法を学び、それを様々な子供向けゲームやアクティビティで実践します。授業で実践した活動をもとに、授業計画を作成する。					○	◎						
184	専門科目群	Oral English for Children B	2	選択					この授業は、「Oral English for Children A」で身に付けた教授法やテクニックをさらに向上させる。毎週、教授法を学び、それを様々な子供向けゲームやアクティビティで実践します。授業で実践した活動をもとに、授業計画を作成する。					○	◎						
185	専門科目群	保育の表現理解(音楽)A	1	選択		○			「音楽入門」において修得できた各々の段階に続けて学習を進めていく。本科目で新たに設定する課題A「ピアノの演奏能力」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「"コールユングテン"より抜粋」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配布する。		◎		○								
186	専門科目群	保育の表現理解(音楽)B	1	選択		○			「音楽入門」において修得できた各々の段階に続けて学習を進めていく。本科目で新たに設定する課題A「ピアノの演奏能力」、課題B「童謡唱歌等課題曲の弾き歌い」（挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など）、課題C「"コールユングテン"より抜粋」、課題D「手遊び歌課題曲」は、ガイダンスにおいてより具体的な資料を配布する。		○		◎								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探究することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10					
199	専門科目群	子どもの健康と安全	1	選択		○			1. 保育における保健的観点を含めた保育環境や援助について2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について4. 保育における感染症対策について5. 保育における子どもの発達や状態等に即した適切な対応について6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、関連するガイドライン等を踏まえ具体的に理解することを目標に、子どもが発育、発達に応じた健康、安全行動ができるように親子支援をする（健康教育、健康支援、環境づくり）。また感染症対策、衛生管理・事故予防及び安全対策、危機管理・災害対策を計画、実施、評価し、親子が安全に生活できるように支援できるように授業を行う。		○		◎											
200	専門科目群	特別な保育ニーズの理解と支援A	1	選択		○			幼稚園や保育所も特別支援教育の対象となっており、個別の指導計画を立てることが望ましいとされている。各障がいについての理解を深めるとともに、支援が必要な子どもたちの保育について理解し、一人ひとりの子どもの発達に応じた指導を計画し、実践する力を養う。この科目では、障がいの概念や障がい児保育の変遷、身体と脳、各障害（肢体不自由、自閉症スペクトラム、ADHD、知的障害、学習障害）の特徴と望ましい支援について学ぶ。		○	◎	○											
201	専門科目群	特別な保育ニーズの理解と支援B	1	選択		○			幼稚園や保育所も特別支援教育の対象となっており、個別の指導計画を立てることが望ましいとされている。各障がいについての理解を深めるとともに、支援が必要な子どもたちの保育について理解し、一人ひとりの子どもの発達に応じた指導を計画し、実践する力を養う。この科目では、各障害（視覚障害、聴覚障害、言語障害、重症心身障害）の特徴と望ましい支援について学ぶ。また、地域社会への参加・インクルージョンや合理的配慮等の基本的考え方を身につけるとともに、家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。		○	◎	○											
202	専門科目群	乳児保育	2	選択		○			乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について等、乳児保育の意義・目的全般について理解する。保育所、乳児院等多様な場での乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、3歳以上児の保育への移行を見据えた生活と遊びについて理解する。乳児の心身の健康的な成長、発達の支援、保護者支援のための知識、技術を習得できるように講義、演習方式の授業を実施する。		○		◎											
203	専門科目群	乳児保育演習	1	選択		○			保育所、乳児院等多様な場での乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、3歳以上児の保育への移行を見据えた生活と遊びについて等、乳児保育で学習した乳児の心身に関する知識と技術に基づき、乳幼児（0～3歳未満）の養護、保育（環境整備、遊びの支援）、保護者支援（相談、家庭保育支援）の実践の技術について演習し、実践できる能力を身につける。また保育指導計画（短期、長期、個人、集団）の作成に基づき保育する能力を身につける講義、演習方式の授業を行う。		○		◎											
204	専門科目群	保育の心理学	2	選択	◎	○			受胎から死に至るまでの生涯発達の過程のうち、特に乳幼児期の発達に焦点をあて、各発達段階における、身体的、心理的、社会的発達を学ぶ。本講座の到達目標は以下の通りである。1 発達概念を理解する。2 身体と運動機能の発達を理解する。3 ことばや認知機能の発達を理解する。4 感情や社会性の発達を理解する。5 発達理論（エリクソン、ピアジェ、ヴィゴツキー、心の理論等）を理解する。6 発達障がいについて理解する。	◎	○		○											
205	専門科目群	子どもの理解と援助	1	選択		○			より具体的な保育実践について心理学の視点から学んでいく。本授業を通して、子どもの身心の発達と保育実践の関係、生活や遊びを通じた子どもの学び、保育における発達援助について理解を深め、実践に活かせるようになることを目指す。特に教育心理学をベースとし、幼児教育・保育に関連する知見を講義していく。また、グループワークを行い、課題に対して心理学の知見を活用しながら解決する力を養っていく。グループ討議・発表では、発表内容に対する質疑を行った上で、解説を加えていく。		○	◎	○											
206	専門科目群	子ども家庭支援の心理学	2	選択					保育の心理学で学んだ内容を基礎としながら、乳幼児や乳幼児を取り巻く人々に関する発達理論を中心に以下の内容を学ぶ。1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3. 子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。また、乳幼児の発達に果たす家族、家庭の機能について自身で考える。		○	○	◎											
207	専門科目群	保育実習(保育所)I	2	選択		○			保育実習Iは初めての保育所実習である。入学後学んできた知識や技術がどれほど身についているかを保育実践の場で総合的に確認し、自己課題を明確化する場でもある。また、保育者としての使命感や子どもへの愛情を深め、保育者としての資質の向上を図ることや、子どもの発達に即した援助を実践的に学び、実践的な能力を養うことを目的とする。さらに、入所児童だけでなく、子どもたちを取り巻く環境についても知り、自らの生活する社会や福祉について問題意識を持ち、積極的に学ぶ態度を養う。		○	○	◎		○									
208	専門科目群	保育実習(施設)I	2	選択		○			保育実習I（保育所）をふまえ、厚生労働省が定める「児童福祉施設及び指定する社会福祉施設」のうち、福祉総合学部が個別契約した主に千葉県内の施設において90時間以上の実習を行う。児童福祉施設について習得した知識と、これまで学んだ保育技術を基礎としながら、施設養護に関わる保育士に必要な指導技術や、知識を習得する。さらに、施設を利用する子どもの理解や保育士の職務内容だけでなく、多職種の専門職が相互に連携することで実践される養護活動の実際を体験的に学ぶ。		○	○	◎		○									
209	専門科目群	保育実習(保育所)II	2	選択		○			実習（保育所）IIは、2回目の保育所実習で、保育士に関する実習の完成形となるため、以下を目標として1回目の保育所実習よりも踏み込んだ内容を行う。保育所での保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技能・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解・判断力を養うとともに、子育て支援を行うために必要とされる能力を養う。物的環境の配慮と構成、一人ひとりに応じた言葉かけや援助、計画と記録などについても学ぶ。また、指導実習（部分・責任実習）を行わせていただき、実習の総まとめとする。さらに、家庭と地域の実態にふれて、子ども家庭福祉のニーズを理解し、判断力や子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		○	○	◎		○									
210	専門科目群	保育実習(施設)II	2	選択		○			保育所以外の児童福祉施設について習得した知識と、これまで学んだ保育技術を基礎としながら、施設養護に関わる保育士に必要なより専門的な指導技術や、知識を習得する。さらに、施設を利用する子どもの理解や保育士の職務内容だけでなく、多職種の専門職による相互連携を意識した養護活動の実際を、実践しながら学ぶ。		○	○	◎		○									

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10				
211	専門科目群	保育実習指導(保育所)Ⅰ	1	選択		○			実習の意義を理解し、実習を円滑に進めていくための準備を行う。保育観察の仕方、日誌の書き方を学ぶ。実習で必要な保育実践技術を確認し、指導計画の立案などを実践的に学ぶ。実習内容や指導計画を用いてグループ討議などをしながら、学習内容を明確にするとともに、実習体験を深化させ今後の実習に向けての自己課題を明確にする。保育や子どもの育ちに十分な関心と基礎的な知識を持ち、自身で目標設定できる力を身につける。実習後に客観的に振り返り、反省と新たな目標設定ができ、課題解決に取り組める力を身につける。			○	○	◎		○							
212	専門科目群	保育実習指導(施設)Ⅰ	1	選択		○			保育実習（施設）Ⅰを行うにあたって求められる知識の習得や諸手続を事前に完了させ、施設における実習を円滑に行えるようにするとともに、事後の実習の振り返り等を通して、保育者として必要な素養を身につける。保育実習（施設）Ⅰに関わる知識、学習内容を課題を明確化するとともに、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化についても学ぶ。具体的な到達目標としては、1. 保育実習の意義・目的を理解する、2. 実習の内容を理解し自らの課題を明確にする、3. 実習施設における利用者の人権・権利への配慮やプライバシーの保護と守秘義務等について理解する、4. 実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について理解する、5. 事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にするを掲げる。			○	○	◎		○							
213	専門科目群	保育実習指導(保育所)Ⅱ	1	選択		○			すでに保育実習を経験をした学生が、ここでの学びをふりかえりつつ、保育を専門とする職業人としての第一歩を踏み出すための、さらなる準備をおこなう。柔軟な感性と視野をそなえた保育士としての素養を身につけることをめざす。講義や演習を通して、現場よりそった保育指導が行えるよう実習のカリキュラムのしくみや、事前準備など必要な知識を学ぶ。また、実習事後には個人とグループで振り返りを行い、定着させる。指導案については、事例をもとに個人の創意工夫をできる限りとり入れた計画をつくり、実際の適用を経て実践的な感覚を身につける。			○	○	◎		○							
214	専門科目群	保育実習指導(施設)Ⅱ	1	選択		○			保育士実習の仕上げとしての施設実習（保育実習Ⅱ（施設））を円滑に進めていくための知識、学習内容を課題を明確化するとともに、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化についても学ぶ。			○	○	◎		○							
215	専門科目群	保育内容総論	1	選択		○			幼稚園・保育所等就学前保育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実践について知識や理解を深め、保育者として保育を構想する力や実践力を身につける。保育内容を総論的にとらえる視点を身につけ、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の示す保育の基本及び保育内容の考え方や指導法について理解する。環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導ということについて理解する。幼稚園・保育所等身につける心情・意欲・態度について考える。幼稚園・保育所等就学前保育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実践について学ぶ。			◎	○	○									
216	専門科目群	保育内容演習(健康)	1	選択		○			乳幼児期における「健康」について、多面的に把握する。領域「健康」の内容を踏まえた保育実践をイメージできるようにする。以上を到達目標とし、本授業では、領域「健康」のねらい及び内容と他領域との関連について扱っていく。その際、保育現場における具体的な諸問題や小学校との連携に関する対応等も交えることで、実践に結びつかながら理解を深める。それらの上で、乳幼児期における「健康」について考察していくことを目指す。			○	◎	○									
217	専門科目群	保育内容演習(人間関係)	1	選択		○			乳幼児期の社会性の発達を踏まえながら他領域と関連付けながら、領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」保育の理論と実践について学び、「幼児教育において育みたい資質・能力」及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、さらに小学校の教科に発展しつつなる保育方法を考える。指針や教育要領における内容の取扱いについて解説をしながら、主に演習形式で進める。			◎	○	○									
218	専門科目群	保育内容演習(表現)	1	選択		○			乳幼児の造形的な表現における発達段階など、基礎的な知識を得ることで幼児の実態を捉え、乳幼児理解を深める。2年で学んだ造形の基礎知識を基に、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導力を深める。また幼児の表現活動を援助するための技能、環境構成、働きかけについて学び、実践力を身につけることを目指す。造形表現の意義を理解し、保育の現場で幼児の主体的な造形表現活動を促すことができる指導力を身につける。			○	○	◎									
219	専門科目群	社会的養護	2	選択					現代社会における社会的養護の意義と課題について、歴史的な変遷や社会的養護の制度と実施体系や施設養護の実態の理解を深めていき、児童福祉施設等で働く保育士としての専門性を高めていく。内容としては、1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する、2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する、3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する、4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する、5. 社会的養護の現状と課題について理解できるものとなっている。			◎	○	○									
220	専門科目群	社会的養護演習	1	選択		○			社会的養護の実践を理解するとともに、各児童福祉施設の援助者としての知識、技能の習得と専門性の理解を深め、到達目標に沿いながら保育者として実践する力を身につける。現代の社会の中で保育士は児童福祉施設等の援助者として、子どもたちと関わり、子どもの権利を守る者として、重要な役割を担っている。児童の心身の成長・発達を保障し、支援するために必要な知識、技能の習得を目指すとともに、専門職としての専門性を高めることをねらいとして、受講生が主体的に授業に参加し、必要な素養を習得できるよう演習形式で、グループワークを中心に授業を展開していく。				○	◎		○							
221	専門科目群	子ども家庭支援論	2	選択		○			現代日本における家族の姿を統計指標から把握すると同時に、「家族の多様性」と「ジェンダーの理解」の基本理念と実践のあり方を様々な角度から捉えることで、子育て家庭を支援する際に保育士として必要な素養を身につけることを目的とする。子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学習する。			○	○	◎									
222	専門科目群	保育・教職実践演習A	1	選択		○			大学4年間で学んだ保育に関する知識、保育実習・教育実習・ボランティア等で得られた技能を統合し、これまでの保育・教職課程を振り返り、保育者として責任を果たすうえで、不足しているものを再確認し、それを補う方法をフィールドワークをおし発見し、学び、実践で活躍できる保育者を目指す。保育実習/教育実習を終了し、保育者を希望する学生が模擬保育や保育現場に出かけて幼児と直接関わり、保育指導、教材の準備、教室環境の整備などの総合的な保育体験を行う。授業形態は演習形式で、模擬保育等を行った後は、履修者全員で話し合い、新たな気づきを得る。			○	○	◎		○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10				
223	専門科目群	保育・教職実践演習B	1	選択		○			大学4年間で学んだ保育に関する知識、保育実習・教育実習・ボランティア等で得られた技能を統合し、これまでの保育・教職課程を振り返り、保育者として責任を果たすうえで、不足しているものを再確認し、それを補う方法をフィールドワークをとおし発見し、学び、実践で活躍できる保育者を目指す。保育実習／教育実習を終了し、保育者を希望する学生が模擬保育や保育現場に出かけて幼児と直接関わり、保育指導、教材の準備、教室環境の整備などの総合的な保育体験を行う。授業形態は演習形式で、模擬保育等を行った後は、履修者全員で話し合い、新たな気づきを得る。なお、保育・教職実践演習Bでは、Aより一層実践的な経験を積む内容とする。		○	○	◎		○								
224	専門科目群	保育原理	2	選択		○			保育所では、0歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。長い子どもは6年間保育所生活を送ることになる。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。少子化の今日、保育に対するニーズは多様化し様々な保育形態が増えている。さらに在宅母子の育児支援も保育士の重要な仕事となっている。具体的には次の内容を学習する。①保育の意義及び目的について理解する。②保育に関する法令及び制度を理解する。③保育所保育指針における保育の基本について理解する。④保育の思想と歴史の変遷について理解する。⑤保育の現状と課題について理解する。⑥諸外国の保育について考察する。			○	◎										
225	専門科目群	保育者論	2	選択	◎	○			保育者の専門性への基本的理解と、自分がめざす保育者像をもてるようにする。歴史的な名著、言葉から保育哲学を学び、現在の自分に置き換え意識化し学習するように講義をする。様々な問題を論議し、共有化し、問題解決のために何をしなければいけないか考察する。日本の保育に必要な保育思想を身につけると同時に新しい保育をデザインする力を養う。保育者の役割と倫理、あるべき姿について学び理解する。保育士の置かれている現状を知り、保育の専門性と保育者の連携・協働について理解する。現代における保育の課題へ関心をもち、保育者として資質向上とキャリア形成について理解する。	◎		○											
226	専門科目群	幼児教育原理	2	選択	◎				1. 教育の本質や目的及び教育の基礎理念、思想、歴史について説明できる。2. 今日における幼児教育のあり方について主体的に考えることができる。3. 教育を実践する者としての教育に対する見方や態度をもつことができる。以上を目標に、教育を実践する者となるために、教育の本質や目的、教育の基礎理念や思想、歴史、制度について理解を深める。あわせて、今日における幼児教育の課題について考え、今後の幼児教育の方向性について展望する。	◎		○											
227	専門科目群	教育社会学	2	選択					学校がその存立と発展を進めている点に問題関心を持ちつつ、今日の家庭教育—学校教育の抱える課題点にアプローチすると共に、特に21世紀に入って上記の社会動向に対応して教育基本法が改正され、それをふまえての諸施策の展開について取り上げる。次に現代日本の公教育の成立過程及びその後の発展という歴史的社会的視点からのアプローチを行うとともに、日本国憲法の下での現代公教育の基本理念や理念そして各段階の学校制度の特色について理解を進める。更に教育委員会の役割と分担、更に文科省の役割と教育財政についても基本的枠組みや近年のデータを参考に授業を進めていく。あわせて今日の地域と学校の連携や開かれた学校の在り方に言及すると共に、学校安全の問題について、安全教育や防災教育の計画と実施、更には危機管理体制の在り方について取り上げ考察する。		◎	○	○										
228	専門科目群	保育・教育課程論	2	選択					「カリキュラム」という言葉の意味と、カリキュラムの制度的な側面として位置づけられる「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を理解する。また保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価についての意義と実践的な側面として位置づけられる各教育・保育機関の理念や方針に基づいて構想される保育・教育課程や指導計画について理解する。保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、保育士として保育計画をデザインする際に大切にしたい考え方について古典を通して学び、教師・保育士が創造する学びの履歴という視点から、自由な発想に基づく保育計画をデザインする。			○	○	◎		○							
229	専門科目群	保育内容指導法	2	選択		○			保育内容5領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」を総合的なものとしてとらえるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」として、子どもたちの成長を連続的なものとして捉え、幼児期の姿と小学生の姿をつなげていくために、保育の総合的指導を理解する。子どもたちの発達を育む「遊び」の理解に重点を置き、子どもにとっての「遊び」の意味と、「遊び」を支える保育者の役割や具体的援助について考えること幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して、保育者としての実践力を獲得する。また遊びと生活を充実させる、保育の計画、実践、評価について学ぶ。			○		◎									
230	専門科目群	幼児教育研究(遊びの援助)	2	選択		○			子どもにとっての遊び・生活とは何か、その意味と現状の問題などを考え、実践的な技術を身につけていくというのが、本講義の趣旨である。具体的な到達目標は以下の通りである。1子どもたちの発達に応じた遊びを理解する。2子どもの遊び・生活はどのように展開し、それによって子どもたちは何を学んでいるかを理解する。3保育者としての遊びの理解と援助について、知識と技術を深める。4自信をもって指導できる遊び100+aの実践力をつける。子どもの発達とともに遊びも変化していく。遊びとは何かを考えることから始め、子どもの発達に合わせた遊びについて講義と演習を通して具体的に学んでいく。また、それらの遊びをより効果的に実施するための技術を学ぶ。			○		◎									
231	専門科目群	幼児教育方法論	2	選択					幼児期に必要なとされる養護と教育の一体化の中で、教育の持つ役割について理解を深める。①子ども達の主体的な育ちを支える保育者の援助のあり方について理論的・実践的に学ぶ。②効率的、効果的な方法として情報機器及び教材の活用をできるようにする。以上を目標に、幼児教育の歴史的な変遷及び現代の幼児を取り巻く環境等をしっかりと提示し、その分析を試みながら、幼児教育の難しさと大切さを把握するために必要な教育方法を理論的・実践的に学んでいく。さらに、目まぐるしく発達、進歩する情報機器にも注目し、利用できるものを積極的に取り入れ、現場で活用するための基本から応用について、指導案に生かせるように実践指導する。幼児教育の方法についての講義を中心としながら、指導計画を立案する演習も取り入れながら進める。		◎	○	○										
232	専門科目群	教育実習(事前及び事後指導を含む)	5	選択		○			幼稚園教諭としての基礎的な保育技術や知識を習得し、実践の場で活用できる力を養う。幼稚園教諭の職務、他職種との連携、人権教育、子ども理解と保育技術、子育て支援について理解を深め、幼稚園での実習を円滑に行えるようにするとともに、事後の実習振り返りを通して、幼稚園教諭として必要な素養を身につける。教育実習は、これまでの保育実習経験と3年次までの全ての学習経験をふまえ、幼稚園教諭に必要な指導技術や知識を習得する。実習園で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに、子どもの発達を理解とそれにあつた指導案を考え、それを実施できる能力を養う。授業は講義および演習で事前学習を行い（実習準備）、4週間の教育実習を実施、実習後は実習について振り返りのバスセッションや面談を通して、実習での学びを深める。		◎	○			○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10		
233	専門科目群	地域における子育て支援A	1	選択		○			保育施設は地域における子育ての支援を行うことも重要な役割であると位置づけられている。地域における子育て支援に関する統計、データ、実践（国内外、実習地域）を分析し、アセスメントし、現状の分析、課題について討議し、アセスメント、エビデンスに基づく地域子育て支援実践計画（計画、実施、評価、分析）を作成し、発表、討議する。また多様な保育環境にある保護者を理解し保育相談支援について、事例を通し理解し実践につなげる授業を行う。		○		○	◎							
234	専門科目群	地域における子育て支援B	1	選択		○			保育施設は地域における子育ての支援を行うことも重要な役割であると位置づけられている。地域における子育て支援に関する統計、データ、実践（国内外、実習地域）を分析し、アセスメントし、現状の分析、課題について討議し、アセスメント、エビデンスに基づく地域子育て支援実践計画（計画、実施、評価、分析）を作成し、発表、討議する。保育専門職として地域の子育て支援を実践できるよう、「地域における子育て支援A」で学んだ内容を活用しながら、学内外子育て支援施設において実践の経験をする。		○		○	◎							
235	専門科目群	子どもの権利と福祉	2	選択		○			子どもの権利とは何か、子どもの権利を確かなものにするために、親の責任や国の責任は何か、国際社会において子どもの権利をどのように保障するか等について、「子どもの権利条約」を中心に講義をする。また、地域の子どものために何が出来るか、地域の問題を見つけ、解決策を提案する。保育の専門家として、子どもたちの権利を脅かすような問題を自ら発見し、問題解決に取り組み、子どもたちの福祉を実現する力をつけるため、子どもの権利やSDGsについて学ぶ。そして、世界や日本の子どもたちの状況を調べ、グローバルな視点で子どもの権利と福祉に関わる地域の問題を見つけ、改善策を考える。		○		◎		○						
236	専門科目群	子どもの発達と相談	2	選択		○			出生から小学校入学までの乳幼児期の理解と発達相談を中心に授業を行う。幼児を理解するための方法を学び、出生から小学校入学までの子どもの発達を理解し、発達相談・教育相談における相談内容、その支援方法、連携のとり方などについて学ぶ。講義形式で理論を学んだ後、ロールプレイによる演習、話し合いなど演習形式で実践的に学ぶ。この科目の到達目標は、1. 保育・教育現場における幼児を理解するための理論と方法を学び、子どもの発達に合った適切な指導ができるようになる。2. 乳幼児期に起こりやすい問題について理解し、支援の方法を学ぶ。3. 相談活動に役立つカウンセリングの基礎的な知識を理解する。			○	◎		○						
237	専門科目群	特別支援保育	2	選択		○			特別な保育ニーズの理解と支援等の授業で習得した「障がい」、「障がい児」についての知識を実践で活かし、障がいを持つ子どもたちの充実した生活とは何かを考え、家族を含めた支援のあり方について考える。また、その中で、障がいを持つということ、持って生きることへの考察を図る。講義科目ではあるが、毎回、演習や討論を取り入れる。この授業の到達目標は以下の通りである。1 障がいについて、知識と理解を深める。2 障がいを持つ子を理解し、その支援の方法について学ぶ。3 その子どもにあった支援ツールを作成できる。		○		◎								
238	専門科目群	子どもの人間関係と観察	2	選択		○			1 幼児教育や保育、心理学の研究手法のひとつである観察法を学び、使えるようになること。2 観察を通して、子どもの仲間関係や保育を理解する。3 子ども理解や保育の在り方を理解するための客観的視点の重要性と記録の意義を学ぶ。以上を目標に、心理学的観察の手法、記録方法や分析方法について、意義、理論を学んだ上で、観察のトレーニングを行う。授業形態は講義形式であるが、理論の学習だけでなく、演習を通して実践的に学ぶ。		◎		○								
239	専門科目群	保育内容演習(環境)	1	選択		○			保育所保育指針、幼稚園教育要領における幼児教育・保育の基本の一つである環境についての全体構造を理解し、環境から経験し身に付けていく内容と指導の留意点並びに評価の考え方を理解する。幼児期の発達を踏まえながら環境を通して小学校との連携を保育・教育の中でどのように考え、デザイン構成できるかが目標である。理論も踏まえながら、毎回、旬の保育現場の写真やVTRを視聴し子どもと保育・教育の臨場感を感じながら現場に即した授業を行う。また、学生自身も保育・教育の環境となることを自覚する為に必要な課題・制作・発表を行う。						○	◎					
240	専門科目群	保育内容演習(言葉)	1	選択		○			1. 領域「言葉」のねらいと内容、及びその指導法について述べる事ができる。2. 乳幼児期にふさわしい環境とはどのようなものか具体的に理解できる。また、その環境の中で保育者どのように援助をしたらよいかを述べる事ができる。3. 子どもの言語の獲得過程について述べる事ができ、合わせてその過程において保育者どのように援助をしたらよいかについて述べる事ができる。4. 子どもが好奇心・探究心をもってかわりたくなるような保育教材を工夫して作り、発表できる。以上を目標とし、「幼児教育で育みたい資質・能力」を柱としながら乳幼児期の言葉の発達を踏まえた領域「言葉」のねらいや内容を踏まえ、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現」したり、「人の話を注意して聞く」としたり、言葉の楽しさに気付くなどがどのような保育で実現されるのかについて理解を深める。		○		◎								
241	専門科目群	保育実践と表現A	1	選択		○			地域の幼児を招いて12月に開催される「クリスマス会」において、表現系授業の総合的実践として、「子ども自らが児童文化財に親しむ体験」機会の提供を通し、観点や手法など生きた学習を実践する。物語を取り上げた視聴覚作品を企画・制作し、幼児教育現場の「表現」や「関心」における音楽の重要性、有効性、可能性を学ぶために手法としてリズム遊び、ごっこ遊び、歌の創作やアンサンブルの手法を学習する。さらに「身近なものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験」「身近な自然、ものの色や形、それらのイメージに親しむ体験」を子どもが出来るための音楽的領域手法を考察する。		○		◎								
242	専門科目群	保育実践と表現B	1	選択		○			地域の幼児を招いて12月に開催される「クリスマス会」において、表現系授業の総合的実践として、「子ども自らが児童文化財に親しむ体験」機会の提供を通し、観点や手法など生きた学習を実践する。物語を取り上げた視聴覚作品を企画・制作し、幼児教育現場の「表現」や「関心」における音楽の重要性、有効性、可能性を学ぶために手法としてリズム遊び、ごっこ遊び、歌の創作やアンサンブルの手法を学習する。さらに「身近なものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験」「身近な自然、ものの色や形、それらのイメージに親しむ体験」を子どもが出来るための音楽的領域手法を考察する。		○		◎								
243	専門科目群	子どもの生活と遊びA	1	選択		○			子どもの身近な環境や生活の中にある様々なものを使って造形表現や遊び道具の制作を行っていく。授業は、主に制作演習を通じて行う。学生自身が普段の生活の中で、様々なものの可能性を感じながら、材料や素材集めを行って制作することで、想像力や表現力を養い学び、将来の子どもとの関わりへと繋げていく。表現活動や手作りできる遊び道具の制作を行い、季節や児童文化財、伝承遊びを取り入れ、実際に制作したもので遊びも体験しながら、子どもへの理解を深めていく。		○	○	◎								
244	専門科目群	子どもの生活と遊びB	1	選択		○			子どもの身近な環境や生活の中にある様々なものを使って造形表現や遊び道具の制作を行っていく。授業は、主に制作演習を通じて行う。学生自身が普段の生活の中で、様々なものの可能性を感じながら、材料や素材集めを行って制作することで、想像力や表現力を養い学び、将来の子どもとの関わりへと繋げていく。表現活動や手作りできる遊び道具の制作を行い、季節や児童文化財、伝承遊びを取り入れ、実際に制作したもので遊びも体験しながら、子どもへの理解を深めていく。		○	○	◎								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探究することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10			
245	専門科目群	精神医学I	2	選択	◎				急速に進む少子高齢化に伴いその医療、介護、福祉を担うスタッフへの期待が高まっている。その期待に応えるためには、<人間>についての幅広い知識が必要となる。なかでも精神医学は人間の<こころ>について学ぶもので大変重要な科目である。精神医学Iでは精神医学の基礎理解を目指す。精神医学とは何かを理解し、こころの病気のなりたちと治療について基本的な知識を学ぶ。国家試験を目指す学生に対して、必要な知識の習得と専門職として実践に役立つ基礎能力を養う。	◎	○											
246	専門科目群	精神医学II	2	選択					精神医学Iで学んだ精神医学の基礎知識をもとに、精神障害の種類、それぞれの特徴、及び、診断方法、治療方法について学ぶ。その学びを通して、精神障害者への理解を深め、専門家としての関わり方を学びつつ、国家試験に必要な知識の習得を目指す。毎回、黒板を使って講義形式で授業を進める。適宜、授業のテーマに関連する資料を配布し、説明を行う。講義の合間に、精神障害の理解を深めるために、少人数のグループワークを取り入れる。精神医学IIでは、できるだけ具体的な事例を用いて授業を展開し、精神障害についての実践的な知識を養う。		○	○	◎									
247	専門科目群	精神保健学I	2	選択	◎				国民のメンタルヘル스에深い関心を持ち、専門職としての知識と実践力を学び考える。WHOの健康の概念、精神的健康、予防の概念、疾病と健康の連続性など精神保健学の基礎的な視点を理解する。各ライフサイクルにおける精神保健の諸問題とその第1次予防の重要性を理解する。また、私たちのメンタルヘルスにかかわる法や制度の概要についてもあわせて理解し、早期発見、早期治療、リハビリテーションのあり方について理解を深める。私たちの精神保健は、個人、家族、集団、組織、地域、社会、文化、環境などによって影響を受けている。精神的健康の維持、増進が人や社会の関係性の中で促進されることをめざし、専門職としての自覚も意識できるよう授業展開を進める。	◎	○											
248	専門科目群	精神保健学II	2	選択					国民のメンタルヘル스에深い関心を持ち、専門職としての知識と実践力を学び考える。現代の精神保健における個別課題を取り上げ、その基本知識と対応策について理解すること。主な項目は、家庭や学校、職場などにおける精神保健・虐待問題・いじめ・ひきこもり・自殺対策とうつ病・認知症の理解と対応・アディクション関連問題など、現代において社会的問題としても取り上げられる各課題に焦点をあてている。その社会的背景、具体的支援の実態について追及し、第1予防、第2次予防、第3次予防といった各次元での対応策や支援体制なども理解することも大切である。これらを通して、現在の日本の精神保健の現状と課題を把握するとともに、専門職としての役割を学ぶ。			○	○	◎								
249	専門科目群	精神保健福祉の原理I	2	選択	◎				本講義では、1 精神障害者福祉の理念と歴史的展開、2 精神障害と精神障害者の概念、3 精神障害の排除と障壁をめぐる歴史と構造について学ぶ。精神保健福祉について専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、以下の通りである。1 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。2 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。3 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。	◎	○											
250	専門科目群	精神保健福祉の原理II	2	選択					本講義では、1 精神障害者の生活特性、2 精神保健福祉の原理と理念、3 精神保健福祉士の役割と機能、について学ぶ。精神保健福祉について専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用することができる力を習得する。到達目標は、以下の通りである。1 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。2 精神障害者へのかかりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。3 現在の精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解する。4 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。5 近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。			○	○	◎								
251	専門科目群	臨床心理学	2	選択				○	ストレス社会の中で、人は精神的に不健康状態に陥ることがある。この授業は、講義形式で行うが、できる限り心理検査などのワークも取り入れる。代表的な理論モデルと主な心の問題について概観するとともに、アセスメントや介入技法について学ぶ。さらにその応用として子育て世代を対象に、メンタルヘルスと子育て支援について理解する。この講義の到達目標は以下の通りである。1臨床心理学とその研究方法を理解する。2理論モデルとそれに基づく技法について理解する。3心理アセスメントの方法を理解する。4発達障がい、統合失調症、うつ病、不安障害を理解する。5虐待が脳に与える影響を理解する。6メンタルヘルスや子育て支援について理解する。													
252	専門科目群	ソーシャルワークの理論と方法(専門I)	2	選択					精神障がいの社会的課題を適切に分析することができる。そして、これらの課題を支援するための具体的な援助技術の展開方法について説明、活用できる力を養成する。特に、①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解し、具体的な援助技術を養う。			◎		○								
253	専門科目群	ソーシャルワークの理論と方法(専門II)	2	選択					精神障がいの社会的課題を適切に分析することができる。そして、これらの課題を支援するための具体的な援助技術の展開方法について説明、活用できる力を養成する。特に、①精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。②個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。③精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解し、具体的な援助技術を養う。			◎		○								
254	専門科目群	精神保健福祉制度論	2	選択	◎				近年、障害者福祉施策は施設中心から地域中心に大きく転換し、自立生活など福祉の新しい理念が続々と登場している状況である。精神保健福祉の施策も同様大きな転換を迫られているが、必ずしも、地域在宅医療や精神障害者にかかわる福祉は十分に進んでいるとは言いがたい状況がある。ここに精神保健福祉の特殊性があらわれており、精神保健福祉士に求められる役割も明確となる。本授業では、こうした視点から、精神障害者に関する制度やサービスを一度捉えなおして、人権擁護と自立支援を前提としたソーシャルワークを行うための基本的知識を押しさえ、説明できることをめざす。また、専門職として、今後の精神保健、医療、福祉について、どうあるべきかを考察できる力をつける。	◎	○											
255	専門科目群	精神障害者リハビリテーション論	2	選択					精神障害者の障害の特長を理解し、全人的回復の視点から精神科リハビリテーションの基礎知識を身につける。その際に個人の機能だけでなく、家族や環境へ働きかけることの重要性を理解する。また、精神障害者のリハビリテーションの理論と方法、プロセス、技法も理解することも重要であり、特に実施機関、施策・制度、社会資源、専門職等についての役割等も理解を深め、その上で、様々な事例を紹介しながら、地域を基盤とするリハビリテーション体制における多職種の協働・連携のあり方や精神保健福祉士の果たすべき役割を考察することを目標とする。			○	○	◎		○						

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10		
256	専門科目群	精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	選択					精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、相談援助にかかわる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を体験し習得する。		○	○	◎	○							
257	専門科目群	精神保健福祉援助演習Ⅱ	1	選択					精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、精神保健福祉援助演習Ⅰの学びをふまえて地域福祉の基盤整備と開発について理解し、概念化し、理論化・体系化できるようになることが目標となる。		○	○	◎	○							
258	専門科目群	精神保健福祉援助演習Ⅲ	1	選択					精神保健福祉士国家資格は、理論を基礎に演習に進み、最終的のその成果を実習で試行することで受験資格が取得される。演習はその意味で、理論と実践の「橋渡し」をすることが目標である。この授業では、精神保健福祉に関する知識や援助についての理論的学習をもとに、精神保健福祉士に求められる相談援助の実際、特にその基本となる援助技術の方法を実践的に習得するとともに、その方法を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができる資質と能力を養う。具体的には、精神保健福祉援助演習Ⅱの学びをふまえて事例の検討やロールプレイなどの演習により学習を進める。		○	○	◎	○							
259	専門科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	選択		○			授業では個別指導及び集団指導を通して、以下について学びを深める。1 精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解 2 実習施設・機関・病院に関する基本的な理解 3 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 4 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 5 実習ノートへの記録内容及び方法に関する理解 授業では、専門的な知識や技能を論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、主体的に活用する力を習得する。		○	○	◎	○							
260	専門科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	選択		○			精神保健福祉領域での現場体験（120時間）を通して精神保健福祉士として仕事をすすめていく上で必要な「専門知識」「専門技術」及び「関連知識」の内容の理解を深めると共に、職業倫理について学び、福祉専門職員になるための自覚を養成する。併せて、福祉施設・機関の利用者、他機関との関係・連携、利用者の家族関係と支援者、地域社会のあり方等についても理解を深める。なお授業では、内容に応じて個別指導及び集団指導を行う。		○	○	◎	○							
261	専門科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	選択		○			精神科医療機関における精神保健福祉実習を通して、（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題について把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職と連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。		○	○	◎	○							
262	専門科目群	精神保健福祉援助実習Ⅰ	4	選択			○		精神保健福祉援助実習Ⅰでは、120時間の地域に関わる実習を通して、以下について体得・理解を深める。（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題を把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携について理解する。		○	○	◎	○							
263	専門科目群	精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	選択					精神保健福祉援助実習Ⅱでは、90時間以上の精神科医療機関における実習体験及び実習指導者による指導を通して、以下の事項について達成する。（１）精神保健福祉援助並びに障害者の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。（２）精神障害者の置かれている現状を理解し、生活実態や課題について把握する。（３）精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術などを体得する。（４）精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。（５）総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職と連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。		○	○	◎	○							
264	専門科目群	福祉専門書講読A	1	選択		○			「社会福祉とは何か」を理解するために、福祉に関する文献や専門書籍を精読する授業と位置づけている。まず、文献や専門書籍に関する購読、まとめる、プレゼンテーションの方法について講義をする。また、指定する文献や専門書籍を輪読し、まとめてプレゼンテーションするという購読プロセスの演習を行う。そして、福祉専門書を購読する力を見つけることができるようにする。学習到達目標は、①社会福祉について興味関心を持つようにする。②文献や専門書籍の精読方法を身につける。③文献・専門書籍の選択からプレゼンテーションするまでできる。				○	◎	○						
265	専門科目群	福祉専門書講読B	1	選択					この授業は福祉専門書講読Aの授業の延長線と位置づけられる。福祉専門書講読Aの授業を通して、「社会福祉とは何か」と「福祉専門書講読方法」を理解したうえで、自分の興味関心のある領域の文献や書籍を複数選択して精読をし、まとめてプレゼンテーションを行う。そして、社会福祉理論の勉強とゼミ選択につながるができるようにする。学習到達目標は、①自身の興味関心のある福祉分野を見つけることができる。②興味関心のある福祉分野に関する文献・専門書籍を選択して精読し、まとめてプレゼンテーションすることができることを目指す。				○	◎	○						
266	専門科目群	人間関係とコミュニケーション	2	選択	◎	○			人間関係を形成するためのコミュニケーションについて、自己の理解、福祉サービス利用者や家族、同僚に対する他者理解、そして地域社会との連携における情報の共有など、様々な場面を想定し広く学習する。各回のテーマについてグループワークを取り入れた学習を行う。	◎				○							
267	専門科目群	チームマネジメント論	2	選択					福祉の現場や福祉企業におけるチームマネジメントの重要性とリーダーシップのあり方を理解する。福祉の現場は、さまざまな専門職が関わる専門領域であることをふまえ、組織の中で、各専門職がその専門性を発揮し活躍するために、いかなるチームマネジメントやリーダーシップ性が求められているのかを追求する。また、他職種の専門職とどのようにかわっていきばいいのかについても追求し、チームマネジメントについて学ぶ。この授業では、施設や地域活動のリーダーシップとチームマネジメントを中心に、事例検討や実践的な課題も取り入れる。そこでは、グループディスカッションを活用しながら、相互に学び合い、資質向上にもつながるよう、主体的に取り組んでいただきたい。			○	◎	○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探究することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10	
268	専門科目群	リスクマネジメント論	2	選択																
269	専門科目群	福祉ビジネス論	2	選択					リスクマネジメントとは現実起こっている、あるいは起こりそうな問題を、その解決方法とともに明確に提示することによって、質の高いケアを供給することです。福祉の世界でのリスクマネジメントの基本的な考え方を理解するために、福祉における現実起こっている問題とは何か、それを解決するために組織とネットワーク、介護保険制度、といったテーマを取り上げます。理論についての講義を中心とし、身近な話題と結びつけながら考えることを目指す。		○		◎							
270	専門科目群	生命科学	2	選択					子育て支援や高齢者・障がい者の介護、環境保護、まちづくり・地域の活性化など私たちの周りには解決しなければならない様々な社会的課題がたくさんある。このような社会的課題の解決に向けて、ビジネスの手法を活用して取り組むのが「福祉ビジネス」である。福祉の世界も介護保険の創設とともに、福祉施設も経営を考えることが必要になった。これまでの「措置」の世界とは異なり、利用者は自らの意思で福祉施設を選択し「契約」するために、福祉施設にもある意味でも競争が出現し、サービスの質が問われるようになった。つまり福祉だけあるいは経営だけではもはや解決できない課題があることを人々が認識するようになった。福祉と経営を学ぶ意義は今後ますます大きくなっている。この福祉ビジネス論では、福祉現場での仕事と一般企業のビジネスの両方に必要なマインド・知識・技術を学び、複雑・多様な問題の解決に取り組むことができるようにする。		◎		○							
271	専門科目群	災害福祉論	2	選択		○	○		本授業は大きく3つの段階的な到達目標を掲げる。第一に生物学の基礎を学び理解することである。具体的には細胞や遺伝子など生命現象の仕組み、生命進化、生態系の仕組みについて基本的な事項を理解する。第二に現代社会の様々な場面において実用化されている生命科学の応用技術の基礎知識を身に付けることである。第三に、本講義で学んだことを活かして、人間や自分自身、自然環境を理解すること、また、医療・福祉・食料生産等の現場における「いのち」や人間の尊厳について考えることにつなげることである。				◎		○					
272	専門科目群	リハビリテーション論	2	選択	○				本講義では災害によって生じる人々の生活課題および、日本および世界的な災害支援の実際と支援者の役割、支援に関わる基礎知識、他職種連携の必要性など災害福祉について包括的に学ぶ。講義を通して、1) 災害時、災害後における福祉施設、避難所等における課題とあり方について理解できる。(2) 災害時、災害後に必要とされる支援体制や支援方法について理解できる。(3) 災害前、災害時や災害後における国や自治体の防災、減災に対する政策動向を理解できることを到達目標とする。			○		○		◎				
273	専門科目群	生活支援技術II	2						広義のリハビリテーションを理解することにより、他のコメディカル職種と連携できるようになることを目指す。さらにリハビリテーションの視点を介護福祉の実践に活用できる知識、技術を身に付ける。また、医療的な側面から見たりリハビリテーションの展開方法と、介護福祉的な展開方法で現場で生かせる知識を養う。授業は講義及び実技を中心に展開する。可能であれば施設見学なども実施し、実際に補助員等に触れ理解を深めるよう促す。	○	◎									
274	専門科目群	生活支援技術III	2			◎	○		尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から要介護高齢者や障害者の自立に向けた居住環境の整備の重要性を理解するための知識を習得する。居住環境という視点だけではなく地域社会、社会福祉施設等、地域を包括した地域資源などからも考察をしていく。また、災害時や緊急時において自ら判断し専門職として適切な行動ができるよう知識と演習も行う。介護福祉施設において介護負担の軽減や感染症対策からも注目されているA1について知識を深めていく。		◎		○							
275	専門科目群	生活支援技術IV	2			○			目標は、利用者一人ひとりの疾病や障害の基礎的な医学的知識を踏まえ、心身の状態・状況に応じた適切な介護技術を他職種との連携も考慮して計画・実践できるように技術を習得する。主な内容として、健康障害がある利用者の自立と安全・安楽に配慮した日常生活における基本的な生活支援技術を、根拠を理解したうえで実践できるように講義と演習にて学んでいく。必要な生活支援に関しては、グループワークで症例を用いて話し合うことで具体的な支援をイメージできるようにする。障害がある利用者に対する生活支援技術は、演習計画書を立案したうえで実技演習を行う。この他、小テストによる知識の確認も交えて進める。授業は日本語を用いて、講義・演習形式で実施する。			○	○	◎		○				
276	専門科目群	介護過程I	2	選択	◎	○			「調理分野」では、人間に切り離せない食事というものを通して、食事は単なる栄養摂取の手段ではなく、楽しみであることを忘れずに、日常の食生活に活用できる調理技術や、食品の特性に関する知識をもち、個々の喫食者にあった生活習慣病の予防食、高齢者、障害者の食事支援能力を身につけ、実践の場で活用できる力とする。「被服分野」では、介護福祉士の役割は、他の福祉専門職との連携を図り、高齢者や障害者が自分らしく、また心身ともに健やかに社会生活を維持できるように支援することである。そのためには介護利用者の衣生活におけるニーズを知ることが大切であり、それに応えるためには衣服に関する知識・技術を習得し、応用することが必要である。そこで、「介護用ウエストポーチ」の製作などの実習を通して、基本的な縫製技術と適切な素材、管理法を学び、介護福祉士として配慮すべきことを自ら考え、積極的に貢献できるようにする。			○	○	◎		○				
277	専門科目群	介護過程II	2			○			「介護過程」は、介護職員の専門的知識・技術をもって行われる利用者を中心とする生活支援の展開方法である。「介護過程I」では、介護を展開する基本理論を学び、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。また、利用者の心身の状況に合わせた適切な介護を実践するための思考過程である「介護過程」の必要性について理解し、適切な状況判断ができる根拠となる情報を導き、その構成要素と展開プロセスについて総論的に理解することを目的とする。	◎	○									
278	専門科目群	介護過程III	2						高齢者や障害を持つ人々へ多様化する介護ニーズに対応できる専門知識として、「介護過程I」で学んだ介護過程の内容をさらに他職種によるチームアプローチの展開や実践できることを目指し、介護過程の展開方法が理解できることを目的とする。到達目標は、1. 介護過程の構成要素や流れについて、説明することができる。2. 本学の介護過程の様式を使って、介護過程を展開することができる。3. 介護過程の構成要素を理解し、利用者の尊厳を守り、QOLを目指した介護過程を展開できる。4. 介護過程とケアマネジメントの関係性が理解できる。5. 多職種協働のチームアプローチの必要性が理解できる。	◎	○									
279	専門科目群	介護総合演習I	1	選択	○	○	○		「介護過程I」「介護過程II」で学んだ介護過程の理論と、「介護実習I」「介護実習II」で体験した知識や技術を統合することで、介護過程の意義・目的・方法について実践的理解が促進される。その結果、「介護実習III」において、介護過程の全プロセスが適切に展開できるようになることをねらいとする。また、ICFの考え方に基づき、アセスメント→介護計画の立案→実施→評価のプロセスに沿って介護過程を展開することが、根拠を持った科学的介護の実践に必要な不可欠であることを理解する。また、利用者の望む生活の実現に向けた多職種協働（チームアプローチ）における、介護福祉士の役割が理解できる。	◎	○									

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 10		
280	専門科目群	介護総合演習II	1			○	○		介護実習の教育効果を高めるために、介護実習に向けての心構え、社会福祉の専門書としての接遇マナーをはじめ、福祉施設全般の基本的な予備知識、効果的な実習をおこなうための動機づけ等の準備を行う。さらに基本的な介護技術の確認、施設のオリエンテーションでおさえおきたい実習施設基本的な情報など、介護実習中に十分実践力を身につけることができるようにする。実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。	○	◎										
281	専門科目群	介護総合演習III	1			○	○		介護実習の教育効果を高めるために、介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行う。また、介護実習1を振り返りながら介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。介護技術の確認、介護過程の展開方法の確認をし、実習に向けて自己の課題を明確化できる。実習後の事例報告などから、自らの実践を振り返り介護実践の科学的探究の道筋を理解できる。学習到達目標は、①介護実習では、知識や技術などの学びを統合し介護実践につなげることができる。②介護現場で遭遇した課題を解決するための応用力、判断力、主体的な行動力を身につけ専門職としての態度を養う。③学んだ課題をまとめ、報告、連絡、相談を通して解決の道筋を考えることができる。	○	◎										
282	専門科目群	介護総合演習IV	1	選択		○	○		本科目では、学外の社会福祉施設にて行う介護実習IIIの前に十分な事前学習を準備するとともに、介護実習終了後に実習を振り返り、自己の学習課題を明確にしながら介護福祉士として社会で活躍するための演習を行う。学習到達目標は、①介護実習に向けて、知識や技術などの学びを統合して適用でき、実践力を身につけることができる。②介護現場で遭遇した課題を解決するための判断力、応用力、主体的な行動力が発揮できる。③介護実習で学んだ課題をまとめ、報告・連絡・相談・討議を通して解決への道筋を作ることができる。④介護福祉士としての基礎となる様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践を融合して論理的に表現できる。⑤実習記録の書き方やレポートのまとめができる。⑥介護過程の展開方法が理解できる。⑦専門職としての福祉理念、職業倫理、求められる課題の把握など総合的な対応能力を習得できる。	○	◎										
283	専門科目群	介護実習I	2	選択	○	○	○		介護総合演習IVは、介護実習I・II・IIIを通して学んだ、理論と実践の統合をおこなう。さらに、介護実習II・IIIで各自が取り組んだ介護過程の展開をふりかえり、利用者理解を出発点とした根拠に基づく介護実践を介護福祉士の専門性であることに気付くことを目的とする。そのうえで「求められる介護福祉士像」に照らして養成教育全体の学びを振り返り、専門職としての自らの介護観を確立し、実習報告会で発表することができることを目指す。	○	◎										
284	専門科目群	介護実習II	4			○	○		介護福祉士養成課程において対人援助職としての基本的な態度、人間関係を構築する基礎となるコミュニケーション技術の習得を基本目標とする。施設における利用者の生活リズムとともに介護者の役割を学ぶ。また、日々のコミュニケーション等を通じて利用者を理解していくとともに、利用者の心身状況について理解し、どのような生活支援を受けているかを把握する。実習が進む中で、基礎的な生活支援技術の場面に立ち会い、その根拠や介護の原則を理解し、一部実践する。実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。授業は日本語を用いて行い、介護老人福祉施設および介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護など高齢者関連の施設で12日間（90時間以上）の実習を行う。	○	◎										
285	専門科目群	介護実習III	4			○	○		介護実習IIはICF（国際生活機能分類）の視点に基づき、利用者の生活全体を理解する。さらに受け持ち利用者の介護過程の一部実践を通して、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う。様々な勤務形態の経験とともに、介護過程の展開を通して、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づき受け持ち利用者の生活全体を把握し、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う（介護計画の立案までは必須）。また実習後は振り返りを行うことで、より効果的な介護実習となるようにする。授業は日本語を用いて行い、介護老人福祉施設および介護老人保健施設、障害者支援施設などの施設で23日間（180時間以上）の実習を行う。	○	◎										
286	専門科目群	医学概論II	2						ICFの視点に基づき、利用者の生活全体を理解し、受け持ち利用者の介護過程の一部実践を通して、心身の状況に応じた介護を組み立てる能力を養う。学習到達目標は、①訪問介護サービスの利用者ニーズと訪問介護サービスの役割の理解。②在宅での身体介護、生活援助を理解する。③サービス提供責任者の業務について、その役割と他職員との関係や連携について理解する④利用者と介護関係を構築する技術をより深める。⑤生活支援の場面を通した生活リハビリテーションと心身の活性化に関する知識・技法を学ぶ。⑥心身の状況に応じた質の高い介護サービスを提供するために、受け持ち利用者について介護過程の一部（アセスメント・介護計画の作成）を実践する。⑦利用者との介護関係を基盤とし個別性に基づく生活支援技術とその根拠と原則を学ぶ。⑧他職種との役割を理解し連携の在り方を学ぶ。⑨地域社会における施設役割を理解する。	○	◎										
287	専門科目群	障がいとリハビリテーション	2	選択		○			目標は、以下の3点である。①身体構造や心身機能の特徴を成長や加齢の変化とともに理解する。②主な疾病や障害の病態や治療・ケア、リハビリテーションを理解する。③医療における福祉の役割や支援に生かせる健康政策について理解する。主な内容は、最新の保健情報・研究のエビデンスに基づき、福祉専門職として利用者を支援するために必要な基本的な医学知識について学ぶ。具体的には、①身体構造や心身機能について（成長や加齢による変化の特徴）、②健康および疾病の捉え方、③疾病や障害の予防・治療・ケア・リハビリテーションと関連する職種、④公衆衛生等を取り扱う。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。（国試対策のための、解説を主に）授業は、講義形式で行う。	◎		○									
288	専門科目群	レクリエーション活動援助法A	1	選択		○			障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障がいのある人へのリハビリテーションの基礎的な知識を習得する。学習到達目標は、①障がいのある人の生活を支援するという観点から、障がいの概念や、障害の特性に応じた知識を習得する。②障がいの医学的・心理的側面の基礎的理解を深め、障がいのある人の生活と障害の特性に応じたリハビリテーションを行う知識を習得する。③チームアプローチによる連携と協働について学び、家族を含めた周囲への支援の視点を習得する。	◎		○									
289	専門科目群	レクリエーション活動援助法B	1	選択		○			介護福祉とレクリエーションの関係を理解するとともに、その範囲を理解する。さらにレクリエーション活動を通して援助法についても考察できるようにすることを目指す。介護福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にし、これからの福祉社会におけるレクリエーション・サービスの全体像を理解することをねらいとする。レクリエーションという概念について論理的に学ぶだけでなく、実際の活動を通して関わりや支援を理解していく。		○	○	◎	○							
290	専門科目群	介護概論	2	選択	◎				社会福祉サービス利用者の日常生活における福祉レクリエーションの意義・価値を理解するとともに、介護現場におけるレクリエーション支援者としての必要な知識ができるようになることを目指す。福祉レクリエーション理論に根ざしたレクリエーション活動を通して援助法について考察できる。具体的なプログラムの作成と実際の活動を通して関わりや支援を理解していく。後半では、プログラムを共同で作成・実施・反省・改善し、その流れを共有し学ぶ。		○	○	◎	○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 福祉について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP 2 福祉、保育、介護の現状を理解し、現場に必要な知識・技能を活かして、主体的に課題を探索することができる。
- DP 3 すべての人々の福祉の増進を目指し、社会人として必要な倫理性と人権意識を身に付け、多様な価値観を尊重して行動することができる。
- DP 4 専門的な知識や技能に基づいて、論理的かつ批判的思考力及び規範的判断力を身に付け、主体的に活用することができる。
- DP 5 国際的・地域的双方の視点から、国境や文化の境を越えて共感し行動することができる。
- DP 6 生涯学習する意欲と能力を身に付け、持続可能な社会、孤立や排除の無い社会づくりに連携・協働しながら貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8	DP 9	DP 1 0				
291	専門科目群	コミュニケーション技法A	2	選択		○			介護福祉士の専門職として、介護福祉の理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。また、介護を必要とする人(高齢者や障害者を持つ人)を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など「その人らしさ(個別性)」を大切にすることを学ぶとともに、介護福祉士の役割と機能を理解することを目的とする。介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護の歴史や関連法規から、介護実践の基本姿勢についてノーマライゼーション、ICF、介護福祉士の倫理などを講義を中心に学ぶとともに、介護を必要とする人の個性や多様性、複雑性を理解し、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な問題と捉える能力を養う。介護を必要としている人の個々の状態に応じた自立の意味や自己決定、ICFの考え方、介護予防についても十分に理解し、尊厳を支えるチームケアの必要性を理解する。	◎	○												
292	専門科目群	コミュニケーション技法B	2	選択		○			社会福祉の一端を担う介護専門職として、利用者や家族、同僚、地域社会と信頼関係を確立できるよう、相手の立場や環境を理解するための基本的態度を体得することを目指す。「人間関係とコミュニケーション」と関連させながら、小グループでロールプレイや検討、討議、発表などを行う。さらにそこで得られた体験の振り返りや解説を通して、個人の反省、分析、考察を深め、一定の整理された概念としてコミュニケーション技術を習得していく。		○	○	◎	○									
293	専門科目群	生活支援技術IA	2	選択	○	○			聴覚障がい者、視覚障がい者に関する基礎的理解及び、コミュニケーションに方法を学ぶことを通し、障害による情報の入手困難や対人関係におけるコミュニケーションのバリアがあること、更にコミュニケーションの手段の方法について理解を深める。 (オムニバス/全13回) (6 林和歌子・114 長谷川智恵子/7回) 手話が音声言語と異なる言語構造を有していることへの理解を深め、手話習得に必要な観る力や表す力等、基礎表現能力を習得し、コミュニケーション意欲を高める。 (6 林和歌子・115 御園政光/6回) 点字、指文字などによるコミュニケーション方法があることを理解し、ガイド方法の説明、情報支援機器、合理的配慮規定などについて学ぶ。		○	○	◎	○									
294	専門科目群	生活支援技術IB	2	選択	○	○			年齢や障害いかんにかかわらず、また施設、在宅を問わず介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。また、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を養う。「こころとからだのしくみ」で学んだ人体の構造や機能に基づき、あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、適切に実施できることをねらいとする。	○	◎												
295	専門科目群	医療的ケアA	2	選択	◎				年齢や障害いかんにかかわらず、また施設、在宅を問わず介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。また、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を養う。あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、状況によって介護技術が適切に実施できることをねらいとする。	○	◎												
296	専門科目群	医療的ケアB	1	選択	○	○			目標は、医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるというために、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識を習得することである。主な内容は、医療的ケア実施の法的根拠など基礎的な知識を理解したうえで、喀痰吸引や経管栄養の基礎的知識や実施手順について、他職種との連携方法も含めて学んでいく。この他、バイタルサインの測定方法や市民による救命蘇生法、感染予防(消毒と滅菌の違い、個人防護具の正しい使い等)、医行為でない生活支援技術についても学ぶ。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。授業は講義形式で実施する。	◎	○												
297	専門科目群	発達と老化の理解A	2	選択					目標は、医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるというために、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な技術を習得する。主な内容は、喀痰吸引と経管栄養について根拠に基づく安全な手技を習得する。「技術訓練」の回数については以下の通りとする。①喀痰吸引一口腔：5回以上、鼻腔：5回以上、気管カニューレ内部：5回以上(手順通りに正確に行えるまで実施)②経管栄養一胃ろう又は腸ろう：5回以上、経鼻経管栄養：5回以上(手順通りに正確に行えるまで実施)③救命蘇生法演習：1回以上、小テストによる知識の確認も交えて進め、演習形式で実施する。	○	◎												
298	専門科目群	発達と老化の理解B	2	選択					ライフステージに応じた心身の発達と健康課題について学習を深める。生涯発達の過程における課題にアプローチする上で必要となる、対象の発達を多面的に捉える力を身に付ける。学習到達目標は、①成長と発達の過程における基本的考え方が説明できる。②発達段階における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。	◎		○											
299	専門科目群	認知症の理解A	2	選択	○				人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化及び老化が及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。学習到達目標は、①高齢者に多くみられる疾病、症状を理解し、生活支援の中で効果的な援助ができる。②高齢者の健康の維持・増進について理解し、生活を支援するための基礎的な知識を理解できる。	◎		○											
300	専門科目群	認知症の理解B	2	選択	○	○			目標は、認知症の人を中心に捉え、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的支援のための基礎的な知識を身につける。主な内容は、認知症を取り巻く日本の状況とともに、認知症に関する医学的な基礎知識を学ぶことで、認知症に伴う心理状態の変化や生活への影響について考えていく。認知症の人や家族の生活の困りごとや必要とする支援を具体的にイメージできるように実際の映像(ドキュメンタリーや映画)を用いて進めていく。毎回の授業後に小テストを行い、学生自身が理解度を確認できるようにしている。授業は講義形式で行う。	○		○	◎										
301	専門科目群	からだのしくみ	2	選択	◎				目標は、認知症の理解Aで学んだ認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を踏まえ、認知症のある人がその人らしく生活できるように、認知症ケアのアセスメントの方法や実践方法を習得すること、認知症の人を支える家族を支援する制度を理解することを目的とする。主な内容は、認知症の人が地域で最後までその人らしく生活できるように、アセスメントの方法や実践方法を講義を中心に学んでいく。また、社会福祉サービスの制度や多職種連携などを学び、認知症の人を支える家族への課題を理解し、支援が行えるようにグループワークも交えながら検討していく。授業は講義形式で行う。	○		○	◎										
302	専門科目群	福祉マネジメント論	2	選択					介護実践に必要な観察・判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できることを目的とする。主な内容は介護を必要とする人の生活支援を行うため人体の構造や機能の基礎的な知識を学ぶ。到達学習目標は、①生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響、気づくべき変化や医療職との連携について理解できる。②終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識、気づくべき変化や医療職との連携について理解できる、である。	◎	○												
303	専門科目群	福祉運営論	2	選択					社会福祉サービスの質の向上に向けて、福祉分野だけでなく他分野のあらゆる組織の「経営」やマネジメント機能が注目されている。本授業では、経営学における組織論、及びサービスマネジメント論における主要な概念を理解することにより、学生が、集団・組織・環境をマネジメントする基本的な視点を得られることを狙いとする。				○		◎								